



現地日本語教師の本邦研修記録

第 7 回

1986年5月

国際協力事業団



JICA LIBRARY



1028047[7]

国際協力事業団		
受入 月日	'87. 1. 20	000
金額		24.5
No.	15840	EMD

まえがき

国際協力事業団では、既移住者に対する教育対策の一環として、主に戦後移住者及びその子弟を中心に日本語教員に対する援助（教師謝金の補助、教具教材等の整備、日本からの指導教師の派遣等）を行ってきております。昭和54年度より開始した現地日本語教師本邦研修（3ヶ月コース）は本年度で7回目を迎えました。

移住者子弟に対する日本語教育のあり方、あるいは施策上の問題点等は今後共十分論議を尽す必要がありますが、優れた教師の育成が日本語教育の推進に必要不可欠からざることは論をまちません。

しかしながら、現地日本語学校での教師の置かれた環境は必ずしも恵まれたものとは言えないのが現状であります。

そこで、これら教師を本邦に招き、外国語としての日本語教授法、その他の知識を修得せしめるとともに、国内研修旅行等を通じ、日本の歴史、社会、現状等についての認識を深めさせることにより、教師としての資質の向上の一助にしたいというのが、この研修の趣旨であります。

本誌には第7回本邦研修教師3ヶ月コース16名、並びに一ケ年コース10名（昭和59年度開始時は6ヶ月コース10名）の総括報告と、研修日誌等が集録されております。

最後に本研修の趣旨に対し、ご理解と、研修生へのあたたかいご指導を賜った玉川大学の諸先生方をはじめ、本研修にご協力いただきました関係機関の諸先生、関係者の皆様に感謝の意を表す次第であります。

1986年3月

国際協力事業団
移住事業部長

目 次

まえがき

研修内容

研修総括報告書<3ヶ月コース>..... 1

ブラジル	ベ	レ	ー	ン	山	根	緑	1
					繩	田	ま	す	み
					竹	村	美	代	子
					三	阪	尚	子
					河	埜	弘	子
					佐	藤	吉	弘
					佐	藤	三	窈	ク
					管	野	初	江
					花	岡	早	智
					弥	政	忠	義
					木	田	祐	子
					志	賀	美	和	子
					川	畑	澄	代
					柴	田	富	士	子
					一	木	順	子
					山	田	美	枝

研修総括報告書<1年コース>..... 27

ブラジル	サ	ン	バ	ウ	ロ	上	田	恵	美	27
						宗	仁	子	マ	ル	ガ
						粉	川	幸	枝	イ	ザ
						管	野	百	合	子	テ
						玉	田	ル	シ	ア	め
						串	間	ジ	ル	ダ
						池	田	グ	ロ	リ	ア
						杉	山	ノ	ル	マ	ク
						井	内	典	子	ス	ェ
						矢	口	眞	理	子

研修日誌..... 47

第7回現地日本語教師本邦研修日程表..... 209

昭和60年度研修生名簿

研修生一覧表



正善先生御夫妻を囲んで（正善先生宅）



鎌倉研修旅行（瀬山先生と共に）



表現教育の先生方と共に



美術の授業風景



国際学友会参観（外国人学生と共に）



特別習字講義（海外移住センター）



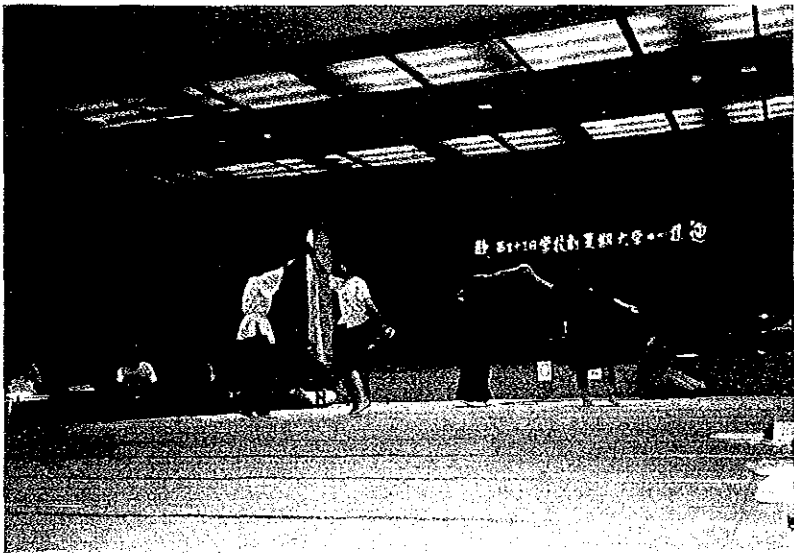
美術の佐藤先生を囲んで



折り紙の授業（小川先生を囲んで）



学校劇夏期大学参加
金平先生と共に（A, Bコース合同）



学校劇夏期大学の研修発表会



幼稚園参観（玉川学園）



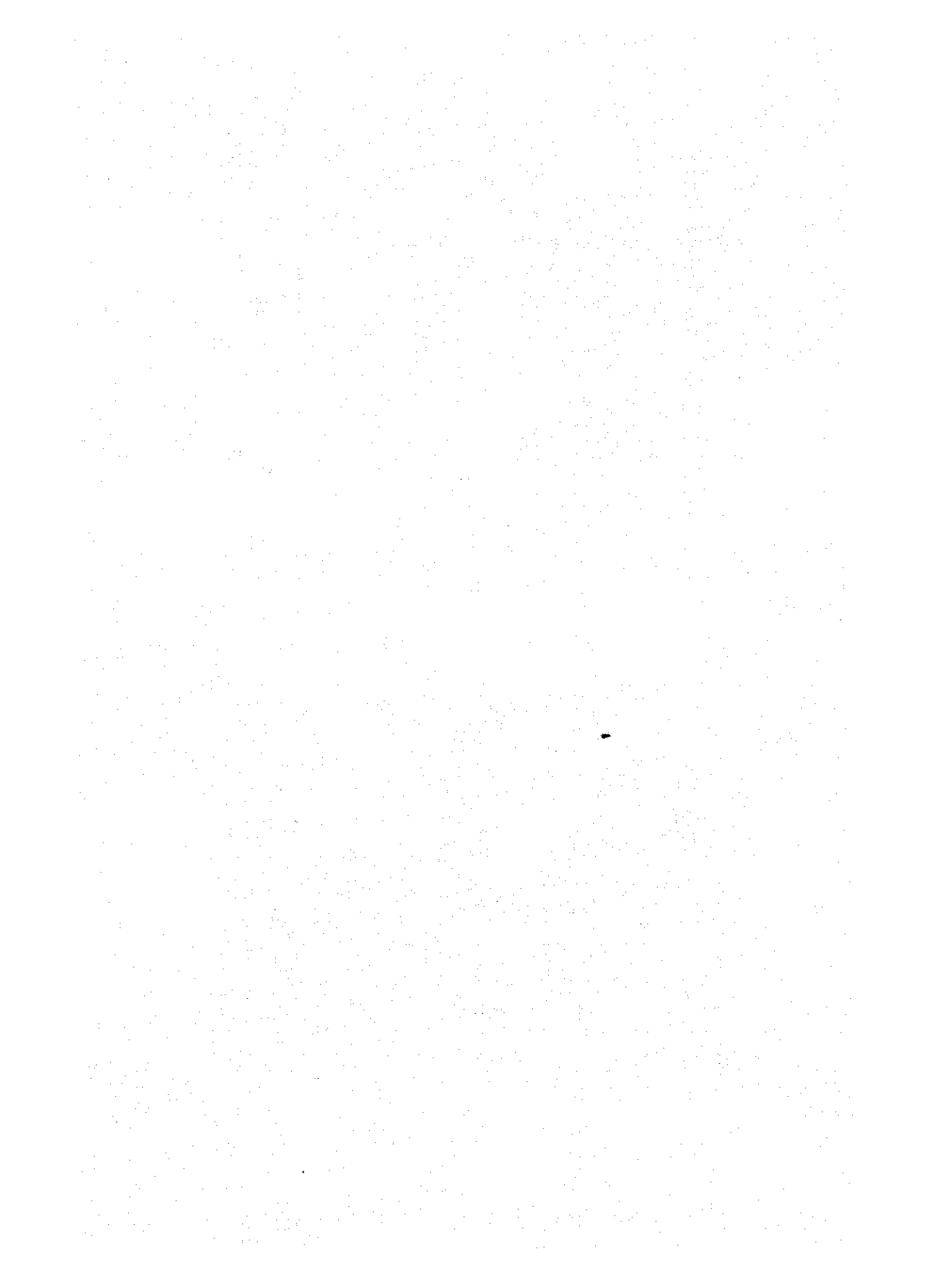
本邦研修の記念植樹（玉川学園）



研修報告会（事業団本部）



閉講式（事業団本部）



研修内容

1. 研修機関 玉川大学
2. 研修期間 Aコース 1985年6月14日～同年9月13日
Bコース 1985年5月17日～1986年3月20日
3. 研修概要 第1期 6月17日～7月23日

講 義			見学研修・行事等	
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
日 本 史	瀬 山	3	6. 17	国際協力事業団開講式
美 術	佐 藤	4	18	玉大キャンパスツアー、オリエンテーション
”	山 崎	1	26	国際学友会参観
リトミック	小 野	3	27	小学部参観、懇談会
習 字	石 川	4	28	日本民族舞踊鑑賞
近代短歌	金 平	3	29	中学部音楽祭鑑賞
体 育	永井(三)	2	30	東京見物
”	臼 井	1		
表現教育	方	5	7. 2	幼稚部参観
現地授業研究	正 善	4	6	築地の田村で懐石料理
日本の文字	平 山	3	7	演芸鑑賞
幼児教育	永井(千)	4	12	能楽鑑賞
海外日本語教育	上 原	3	13	鎌倉ツアー
音 楽	朝 日	3	20	歌舞伎鑑賞
”	千 葉	2	22	音読調査
”	小宮路	1		
日本語を教える	片 山	4		
国語教材	長 野	2		
折り紙	小 川	6		
古典芸能	法 月	2		
教育を考える	石 橋	4		

第2期 7月24日～8月22日 (夏期スクーリング)

講 義			見学研修・行事等	
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
国語教材研究	上 原	6	7. 24	オリエンテーション, 入学式, 開講式
(一般) 音楽	小 宮 路	4	27	劇団ひまわり観劇 学校劇夏期大学研修 (伊豆長岡)
	木 下		8. 6	
	江 口			
図工教材研究	佐 藤	4	8	
音楽教材研究	朝 日	6	20	スクーリング閉講式
僻地教育	小 林	2		

第3期 8月23日～9月13日

講 義			見学研修・行事等	
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
現地授業研究	正 善	2	8. 23	筑波科学博見学
日本語教授法	小 峯	2	31	関西研修旅行
口 頭 表 現	河 原 崎	3	9. 1	
文法, 文型	森 田	4	2	郷里研修旅行
日本語児童教育	白 鳥	2	}	(出身校参観・郷里訪問)
日本語児童教育	正善(多)	2		
			11	玉川大学諸先生への謝恩会
			12	国際協力事業団閉講式
			13	玉川大学修了式

Bコース 1985年5月17日～1986年3月20日

第1期 5月18日～7月23日

講 義				見学研修・行事等
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
日 本 史	瀬 山	5	5. 18	事業団オリエンテーション
国語教材研究	長 野	7	20	事業団本部懇談会
音 楽	田 中	2	21	玉川大学キャンパスツアー, オリエンテーション
日本の文字	平 山	5	24	ハトバスツアー
美 術	佐 藤	4	30	ジャパンインターナショナルスクール参観
海外日本語教育	上 原	4	6. 4	玉川学園幼稚部参観
日本語を考える	片 山	5	12	学芸大学附属大泉小学校参観
文章表現	金 平	7	26	国際学友会参観
体 育	永 井	3	27	玉川学園小学部参観 懇談会
リトミック	小 野	3	29	玉川学園中学部音楽祭
表現教育	方	4	7. 6	懐石料理(築地田村)
現地授業研究	正 善	4	7	演芸鑑賞
幼 児 教 育	永 井	4	13	鎌倉ツアー
音 楽	朝 日	3	20	歌舞伎鑑賞
音 楽	千 葉	2		
音 楽	小 宮 路	1		
折 り 紙	小 川	6		
美 術	山 崎	1		
古 典 芸 能	法 月	2		
教育を考える	石 橋	4		
体 育	臼 井	2		

第2期 7月24日～10月5日

講 義			見学研修・行事等	
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
日本語児童教育	白 鳥		7. 24	玉川大学夏期スクーリング
日本語教授法	小 峯		}	フランス語, 英語, 音楽, 児童心理学
文法, 文型	森 田		8. 20	国語, 教育心理学
現地授業研究	正善 (達)		8. 6	学校劇夏期大学 (伊豆長岡)
補助教材作成	正善 (多)		}	人形劇実習 (凡下進先生)
日本の言葉	広 瀬		8. 8	
日本文化の特質	養 手	3	8. 21	僻地教育 (小林先生)
日本の家庭生活	小 南	1	22	"
洋食とテーブルマナー	天 野	4	8. 23	筑波科学博覧会見学
生 け 花	淵岡、吉永	5	8. 26	海外移住センターで講義
茶 道	淵岡、吉永	10	30	
アートフラワー	白 井	5	9. 2	国際女子研修センター
			21	
料理の基本と実習	太 田	3	9. 2	開講式, オリエンテーション
は り 絵	宮 地	6	14	歌舞伎見学
育児の理論と実際	青 木	3	20	鎌倉見学 (法話座禅)
			9. 24	郷里現場教育研究
			}	東京ジャパンインターナショナルスクール
			10. 5	国際学友会

第3期 10月7日～12月20日

講 義				見学研修・行事等
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
日本語教材研究	長 野	13	10. 10	玉川学園, 玉川大学体育祭見学
日 本 史	瀬 山	7	10. 21 24	京都, 奈良研修旅行
幼 児 教 育	永 井	5	11. 1 3	玉川大学コスモス祭
表 現 教 育	方	3	11. 15	第九演技鑑賞
音 楽	小宮路	6	11. 18	高等部音楽祭
書 道A組	石 川	8	11. 19	歌舞伎鑑賞
音 楽	千 葉	2	11. 22 23	玉川大学収穫祭 "
文 章 表 現	金 平	8	11. 30 12. 2	伊豆研修旅行
体 育	三 橋	6	12. 20	クリスマス礼拝
文 法	片 山	6		
海外日本語教育	上 原	7		
美 術	佐 藤	7		

第4期

講 義			見学研修・行事等	
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
文章表現	金 平	5	2. 5 9	スキー学校（長野県安南平）
日 本 史	瀬 山	5	2. 12	書道展覧会
国語教材研究	長 野	6	2. 17	東京外国語大学付属日本語学校参観
幼 児 教 育	永 井	1	2. 22 23	玉川学園小学部発表会 "
体 育	三 橋	4	2. 28	凡人社
日本語を考える	片 山	6	3. 1	玉川大学修了式
書 道 A 組	石 川	5	3. 3 6	新宿日本語学校研修
海外日本語教育	上 原	4		
美 術	佐 藤	6		
表現教育	方	8		

新宿日本語学校・講義			見学研修・行事等	
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
クラス見学		10	3. 8 9	玉川学園中学部展覧会 "
初級教授法	江 副	10	3. 10	玉川大学卒業式
助 動 詞	藤 井	2	3. 11	東京国立博物館見学
参 考 文 献	杉 山	2	3. 12	演劇鑑賞
動 詞	松 尾	2	3. 13	学習への導入とリクリエーション（石井先生）
待 遇 表 現	上 田	2	3. 14 17	広島、大阪研修旅行
その他の文法	松 尾	2	3. 18 19	レポート作成及び帰国準備 "
ワ ー プ ロ	江 副	2	3. 20	事業団修了式

研修総括報告書

期間：1985年6月14日～同年9月13日（Aコース）

1. 当初、研修に期待したこと

1人で考え、すべてに行き詰っていました。

家庭においては、父の高齢化と営農の問題、日語教室にては、何となく生徒との間に違和感があるようで、自分の無力さが、みじめに思えました。歌唱指導をしても、自分が自信なく歌ってるし、生徒が休みだしました。土曜日の情操教育にこそ、特色を打ち出して、情熱をそそいできたつもりでした。新しい歌を次々と歌いこなし輪唱もし、二部合唱もできたのに。歌を好まない生徒がいるなんて信じられませんでした。建設的な突破口を見つけたいと思いました。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

解放された伸び伸びした人間関係をつくるには、授業においては、導入の際、リラックスさせることが大切です。静かな音楽を聞かせる。あるいは、目を瞑らせ、いろいろな音を聞かせ、想像したことを話させる。二人ずつ組んで話し合わせる。

展開の場面では、きっちり授業をし、もう1度復習をして授業を終る。そして次回の予告をする。

興味を示さない子、会話の苦手な子の誘い出し方を教わりました。要は1人1人の生徒に関心を持ち、答えを引き出してやるのです。教師「〇〇さん」生徒「はい」

教師「元気そうですね」生徒「そうですか」教師「そうですよ」

教師「いい名前ですね」生徒「そうですか」教師「そうですよ」

教師「にこにこしてますね」生徒「はい」

教師「思いっきり歌ってごらん」生徒「できないよ」教師「できますよ。うんと胸に空気を吸って、あーっと声を出してごらん」

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

お金をたっぷり持って来ること。授業に関する参考書や読みたい本や、良い教材を仕入れるには、お金が必要です。衣類は高いし、外食をする機会が多いですから、栄養のバランスを崩す恐れがあります。

4. 所 感

1. 最近の日本語

通学の電車の中で、女子高校生とよく一緒にになります。

その時、耳にする言葉は、流行語に遠くないと思いますが、すぐに廃れて、普通の言葉に戻るだろうと楽観しております。ただ騒音の中で、大きな声を出そうとするのか、甲高く、頭の頂上から出てくるのではないかとされる程でした。

彼女達が小学生、中学生の国語、音楽、体育等の時間に、朗読、発声の基礎訓練がされていたら、若い層からだんだんとうるわしい声で会話するのではないかと思います、提案します。と申しますのも、7月にJICAのご配慮で、能、狂言、歌舞伎を鑑賞することができました。役者の方々は、何百年にもわたって、代々発音・発声と日本語を正確に伝授してきたのだそうです。マイクなしで、何百人もの観客に正確に明瞭にせりふを伝えなければなりませんから、その訓練は、なみたいていではないでしょう。お腹の底からの力が入った声に聞えました。

8月に入りまして伊豆で開かれました自動劇作の会に参加させていただきました。朗読劇の時間に、芸大邦楽科を卒業された女の先生の実演がありました。『ふるさと』でした。コーラスで歌っても思わず胸がしめつけられます。それを謡曲で聞きました。ゆったりと野太く一同はおちついた気持で聞いておりました。このように聞く人に安定感を与える、美しい声の出し方を学んでおく必要がありそうです。

2. 老人問題と私

老いは忍び足で、誰にでもやってきます。

世界有数の長寿国となった日本は、厚生省が、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、ショートステイ等、いろいろ対策に応じようとしています。ショートステイは1ヶ月間、老人を預り、家族の看護疲れをほぐし、家族は、又元気を出して看病できるから、その制度は喜ばれているそうです。

老人は、バスや電車では入口から乗って、すぐのシルバーシートに優先して座れます。大会社では、シルバー会員に階段、トイレ、フロアのそうじをしてもらいます。

そのように、仕事即、収入に結びつくことのできる人は恵まれているといえるでしょう。又、老人ホームに入らない人は、旅行したり、ジョギングしたり、早朝体操をしたりしている姿を見ました。

私の父は、農業は未経験でしたが、移住しましてもう12年になります。腕や肩は赤銅色に焼け、毎日汗を流しています。自動車を運転し、組合会議では発言し、家族に必要な買物をすることもできます。ただ、食事作りだけは、苦手で、主婦か娘が家にいないと困るのです。手紙を貰うのを好み、自身も、よく出しています。私の末の娘は、祖父によく手紙をするので、それを心待ちにしています。私の留守の間は、ご飯作りに一生けんめいで、友達と遊ぶひまもなかったと、書いてきました。めそめそしてよく泣く子でしたのに、こんなにも芯の強い子だったのかしらと見直しました。このような祖父と孫の強い結びつきを喜ばしいことと思ひ有難く思っています。又、これほどに父が頑張れる気力のもと、孫を1人前にしたいという願望にあるのでしょうか。幸い、どの子も負

けん気で、成績も上の方ですから、三人が持ってきます通信簿をにこにこ眺め入っています。

さて、今なら体力、知力も、余力があるから、よぼよぼにならない内に、日本に帰ってもらってゆっくり余生をおくってもらおうという、友人達の親切な気持ちがあります。このまま日本に帰ったとして、現在のような張りのある生活がおくれるとは思えないというのが私の見方です。父の問題は、私の問題でもあり、孫達の問題でもあります。三者一体となって力を合わせていこうと思います。

ブラジル国パラ州

イガラツペーアス日語学校

縄田 ますみ

1. 当初、研修に期待したこと

教師として自分自身にもっと勉強の必要性を感じ、いろいろな事を学びたいと思いました。

- 1) 日本語教育の意義
- 2) 複式授業のあり方
- 3) 教科書の単元を具体的にどう指導するか
- 4) どのような教材が使われているか実際に見る
- 5) 日本語の基礎的知識

日本において各種の本を求める。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

初めに上原先生より学んだ「保育者王戒」より実践していきたいと思っています。言語における第二次現象である、書き方、読み方、理解力は当然教えるはなりません、第一次現象である子供の感情思考の発達過程にも重点をおき、子供を育てるという気持ちで教育したいと思います。

また、幼い子供たちが、親に連れられて日本語学校へ来るという事はその子供たちにとって日本語は母国語として教えなければならないと思います。

私の学校は複式授業ですが、複式授業の長所と短所は表裏一体ですので、なるべく長所を活かす授業を行いたいと思います。その時は郷里研修に行った学校の授業を参考にしたり、いただいた資料に基づいて研究したいと思っています。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

カリキュラムの組み合わせ方をもっと研究してもらいたい。

4. 所 感

経験もあさく、教師として自分の力不足を感じ勉強の必要性があると思っていましたが、ブラジルにおいては思うように時間がとれませんでした。今回、日語教師本邦研修性に加えていただきまして大変ありがとうございました。

私はいつもなぜ子供たちに日本語を教えるのかという根本問題に悩まされていました。ブラジルにおいて子供たちに私のできる限り精一杯教えているのですが、その中にあるべき一本の筋という物がどうもはっきりしない感じでした。それは日本語を外国語として教えるか、母国語として教えるかという迷いが原因だと思います。玉川大学の研修で「教育感情論」を読み、私の求めていた答を得る事ができました。これが私の今回の研修の一番の収穫だと思います。日系子弟の特に低年齢層に日本語を教える場合は教師として母国語を教えているのだという信念を持つべきだという私なりの結論に達しました。その外の授業もそれぞれ有意義な講義が多く大変参考になりました。表現教育、国語学、音楽が良かったです。

複式授業においては「わたり」「ずらし」などの教授法が大変良く研究されていて感心しました。郷里研修においては戸門小学校の大塚観三校長先生に大変お世話になりました。一週間の内一日は隣接校である鶴坂小学校、孫内小学校まで、わざわざ案内していただき、そのうえ少しでも多く学んで行くようにというお言葉までいただき、心より感謝しております。いろいろ参考になる事も多く良い経験になりました。

玉川通大スクーリングも若い世代との交流があり互いに刺激になり、生活も規則正しくなり、塾生活は人生にプラスになったと思います。

大学生生活四年で勉強しなくてはならない所を三ヶ月で教えていただいたので、私にとって充分でなかった所もありましたが、導入の機会を与えていただいたので、これから自分自身で子供たちの授業にどうとりくんでいくか考えて行きたいと思います。これが私に残された重大課題であると思います。最後にブラジルにおられる方々、日本にて受け入れてくださりました方々に感謝の念を述べたいと思います。どうもありがとうございました。

ブラジル国バイア州

イツベラ日本語学校

竹 村 美代子

1. 当初、研修に期待したこと

1. 人格形成の一環としての日本語教育の為の教師のあるべき姿、特に「全人教育」をモットーとする玉川学園の教育理念に触れたいと思った。
2. 外国語としての日本語の効果的な指導方法と教材の研究

3. 現地の学校で不足している情操教育（音楽、美術）の指導方法
4. 子供に興味を持たせ、積極的に学ぶ心を養う歌遊びゲームの研究
5. 近年著しく発展した日本の現状を知る。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1. 本邦研修で学んだ事を単に知識としてでなく、体で感じ取った事を活かして現地の日本語学校で教えたいと思う。
2. 教師は子供の全人格を担当する事を念頭に置き、良き教師との出会いが子供の人生を左右する事を肝に銘じて、あせらず一歩ずつ、常に学びつつ教える様努力するつもりである。
3. 情操教育に力を入れ、音楽や美術（図画工作）の授業時間を増やし、子供の個性を伸ばしたいと思う。
リトミック表現教育を導入し、子供に開放と集中を試みるつもりである。
4. 研修の成果をレシフェ管内の現地日本語学校に出来るだけ具体的に伝え、日本語教育の推進に努めたい。横の繋がりを密にするつもりである。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1. 本邦研修制度の継続
2. 今後、本邦研修に選考された人は、前年度の研修生から最大限の予備知識を与えて貰い、研修の効果を図る。
3. 時差ボケによる集中力の不足を捕う為に、時間割の再編成（リトミック、体育、表現教育、音楽、美術、折り紙を初めの週に沢山入れる等）と、現地の日本語学校の授業に特に必要としない科目を削除して戴きたい。
4. 移住センターにおける第3期の授業コマ数の増加
5. 規律正しい塾生活は玉川の教育を知る上でとても良かったので、今後も続けてほしいと思う。
通学の時間が省けるので、余裕のあるスクーリングが持てると思う。

4. 所 感

私は、11年間住み慣れたパラナ州第2の都会ロンドリーナから2500キロメートル離れたバイア州の奥地イツベラに農業自営の為に、7年半前に引っ越して行っただけですが、イツベラ移住地に日本語学校がなかったので、数年前から自分の子供も含めてコロニアの日系子弟に日本語を教える事になり「女性は文化の担い手である。」と説かれた故杉野忠夫先生のお言葉を胸に、未熟ながらも日本語教育に挑む様になりました。

此の度、イツベラ日伯文化協会、イツベラ日本語学校教師及び父兄の協力の下に本邦研修が実現

したのですが、猛暑の日本の夏に体力的に耐えられるか、暑さに弱い私は不安でしたが、着いた時が梅雨で雨の多いイッペラの気候に似ていたので、体調をととのえるのに辛いし、引き続き、厳しい暑さの中でのスクーリングも本邦研修性の連帯感と玉川大学の塾生活のお陰でやり遂げる事が出来、嬉しく思います。

玉川学園のユニークな教育については、多少の予備知識はありましたが、実際に接して見て「全人教育」が何であるか私なりに理解する事が出来ました。「真、善、美、聖、健、富」の言葉は座右の銘として心に刻んでブラジルの地に帰りたいと思います。

センターでの集中講義はすぐに役に立つ物が多かったですし、学校参観、演劇鑑賞、見学、研修旅行、出身地研修と至れり尽せりのスケジュールに唯々感謝の念で一杯です。

長い様で短かった3ヶ月の研修期間でしたが、学生に戻った気持でノートを取り、私の脳裏に刻みつけ、今後の私の原動力としたいと念じています。

教育の専門家でない私は時としては自信がなく、指導方法に悩む事も度々ありましたが、今回の研修で自信が持て、学んだ事を自分の物として活かしたいと思います。気負いを捨て、謙虚に後ろ姿を見ただけで子供が付いて来る様努力する所存です。

祖国日本の繁栄は私の想像以上のものでしたし、反面、その歪みもある様に見受けられました。進んだ日本のより良い面を吸収し、遅れた移住地において、国際人の感覚を持って心豊かな日本の文化、日本の心を伝える為に私の人生の第2段階のスタートを研修を機会に切りたいと強く思いました。

国際協力事業団本部、海外移住センターの職員の皆様、玉川大学の諸先生方、国際教育室の方達、そしてセンターに講義に来られた先生方に心よりお礼申し上げます。

アルゼンティン国ミナス・ジェライス州

イパチンガ日本語学校

三 阪 尚 子

1. 当初、研修に期待したこと

二年前から、現地の日本語教師の講習会に参加し、その地域の環境、職業、将来日本語の重要性を父兄が認識しているかどうか、家庭内で日本語を使っているかどうか、母国語としての日本語と考えているかどうか外国語としての日本語と考えているか、又、教育とはお金が掛かるので、必要なだけお金を出せる家庭が多いか少ないかに依って、その地域に合った教え方しかないので、一概に研修受けたからと言って全部取り入れてやる事は出来ないで、私の地域では、何をどんな風に教えたなら良いか、どんな物を教材に使ったら良いか、いかにして子供が日本語に興味を持ち、積極的に勉強してくれるか、楽しく学べるカリキュラム作成、子供のその年齢に依って、どんな心理を持

っているのか習得出来たらと期待しました。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

今回の研修を受け、自分なりに私の地域に合ったカリキュラムもつくれそうですし、教材も、私達の所で手に入る材料で、手作り出来るし自分なりに工夫できる色々な教え方を学びました。期待しただけの事は有りました。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- ① 現地で頑張っている日本語教師が、この研修を通して肌で“何”かを体得し、これからこの経験を生かして、現地に帰り、研修と言う種子を植え、芽を出しそれらを立派に育てて行けるものと思いますので、この本邦研修制度は今後も続けていただきたいと思います。
- ② 研修内容の要望して第一期は来日当時は、時差ボケと集中力の無いボーとした頭では、固い内容の授業ですとしっかり勉強したいにも体の方が言う事かかず集中できないので、10日～15日間は一日の授業のスケジュールの中に指や体を動かす授業を組入れていただき、その後基礎講義を中心にしたら良いのではないかと思いますので講義のスケジュールの改善を望みます。第二期、第三期は、良い授業だと思いますが、低学年を教えている私には、第三期の授業がすぐ役に立つ講義ばかりでしたので、授業時間をもっと増していただくよう考慮してほしいと思います。

4. 所 感

この三ヶ月間を振り返ってみて、色々な講義を受けましたが、私の頭の中は、これから私の学校のカリキュラムを作成するに当って、何を取り入れ、何を教え、充実した今回の研修内容をどんな風に組み入れたら良いかと、もう目下整理中で掃蕩したら一番最初にする私の仕事だと思います。今までにない色々な授業内容になると思いますので、今から一人で楽しく考えて居ります。それ程、勇気を受けた今回の研修でした。

玉川大学で講義をして下さった暖かい先生方の教え方、気くばり、態度は総て私達が学ばないといけない事ばかりですし、先生の人間性が子供達にとってとても大切に有り、教師たる者は『進みつつある教師のみ教える権利がある』と言う言葉を自覚し、これからも努力し、子供達の人格を尊重し、私の出来得る力で、子供達のために尽して行けたらと思って居ります。

最後になりましたが、この機会を与えてくださいました国際協力事業団及び玉川学園の皆様、そして海外移住センターの皆様、センターで特別講義をして下さいました先生方に厚くお礼申し上げます。どうも有難うございました。

1. 当初、研修に期待したこと

- ① 複式授業で効果を上げる方法
- ② 日本の僻地での授業（特に複式授業）参観
- ③ 自分自身のための日本語の基礎の習得
- ④ 外国人のための日本語の教材の研究
- ⑤ 外国人に日本語を教えている学校の参観
- ⑥ 最近の日本の学校の事情（特にリトミック、表現教育など新しい教科について）

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川で学んだ音楽教育のすばらしさをすぐ現地で役立てたい。音楽を通じて（楽器がなくても音楽が出来ることを学んだので手遊び等を取り入れて）子供達に少しでも日本語を教えて行きたい。

毎年サンパウロで行われる日語教師の講習会、又聖北日語連合会等で研修で受けた要点など伝えたい。そして出来る限り現地で日語教師を続けたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- ① 本邦研修制度は、我々現地教師として唯一の有意義な制度です。未永く継続して頂きたいと思えます。
- ② サンパウロのように日本語学校が多い所は、研修生の人数を増加して欲しい。
- ③ 玉川に於ける講義の時間割を考慮して頂きたい。例えば、表現教育、リトミック、体育の後に習字、観劇などさけて欲しい。
- ④ 三期のセンターでの講義の日数をもう少し増やして欲しい。

4. 所 感

専門的な教師の資格も持たず、現地の日語教師として8年間大きな不安を胸に抱きながら現地での教師研修会等を唯一の手がかりとして現在に至っておりましたが、この度、事業団の温かい計らいにより本邦研修生に参加でき、非常に喜びを感じました。又、玉川大学の講義ということで講義を理解できるのだろうかと不安を感じていましたが、先生方の御好意でとても楽しくついて行くことが出来ました。玉川の人間味あふれる先生方の姿が私達も教師として必要なのだとつくづく感じました。この姿勢をいつまでも忘れず、研修で習得出来たことを現地で教え、よき日系人を作るべ

く日語教師として努力して行きたいと思います。何かを求めて暗中模索していた折、この研修を受ける機会を与えて頂いた事を深く感謝致します。小原国芳先生が言われたように“進み行く教師のみ教える権利あり”人間は“生涯学ぶ”この言葉を私は忘れる事は出来ません。11年ぶりに日本に帰り、日本の進歩した姿、教育のすばらしさ各所で受けた温かいもてなしも忘れる事は出来ません。

事業団、玉川大学の関係者、国際室、通大の皆様、講義をして下さいました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

ブラジル国サンパウロ市

ジャグレーひまわり学園

佐藤 吉弘

1. 当初、研修に期待したこと

友人の第5回、第6回の研修であった教師より玉川大学の全人教育のすばらしさについて聞かされ、全人教育とはいかなる教育かと大変興味をもっていました。私の学校は複式授業でありその指導法なども覚えるのではという期待、そして、最近言われている外国語としての日本語教育についても日本の関係者の方々は、いかに考えて居られ、又、其の適切な指導法なども期待して来ました。しかし私が最も期待して来たのは、児童の心理について何かを学ぶ機会がないかということです。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本語教育は、外国語教育であるという割り切った考え方では本当の日本語教育はできない事を身をもって知りました。日本語を通じての人間作り、人格形成こそ最も大切な事であることをしっかり頭に入れた指導をすべきです。この度の研修で得た玉川の全人教育は、唯、単に児童に知識を与えるのみでなく、児童が人間として立派に成長して行くのを助けるのが教師の役だということでした。日本語を通し、日本人の持つ優れたものを子供達に出来る限り植え付けたいと思っています。

教師の最も大切な、教育姿勢について学びました。玉川の先生達の生活を見ていると数々教えられるものがありました。私にとってこの度の研修で得たものは、技術的なものより精神的なものの収穫が多かったようです。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

今後、益々日本対外国の交流が深まる事は明らかであり、それと共に日本語教育も益々盛んになって来ることと思います。しかし、人材はだんだん少なくなりつつあるのが現状です。今後もこの制度が続けられることを望みます。

Bコースの研修性は、大学生は年令的に研修を終えた時には、結婚適齢期に達しており、又現地

で大学出の女子の職場は多く良い条件で企業に引っ張られる恐れもあります。(日本語教師の待遇はあまり良くない) 現地語での学力を重点せず、むしろ日本語の学力を重点とした人選を行ったらどうでしょうか。

Aコースの場合も、唯、日本語を知っているのみでなく、日本の文化面、又、日本の現状などについての知識のある先生を選ばないと、情報社会の進んだ目まぐるしく変化して行く日本での生活について行けず、授業以外に対するエネルギー使用が多くなるのではないかと思います。

4. 所 感

3ヶ月間の研修を無事終えて感無量です。私は幸か不幸か団長として責任ある立場にあり、常に団員全員に目を配り行動してまいりました。女性の多い団体の指導は結構神経がつかれました。しかし副団長の2人が大変良くやってくれ、特別に何事もなく無事研修を終える事ができました。小生にとって、この度の研修は、唯、知識を得たばかりでなく、大きな人生の経験ともなりました。この度の研修プログラムには、直接役立つものや役に立たないものもあります。しかし直接役に立たないものほど長い教育生活の内に必や、その知識が何かの弾みで蘇り、役立つ事があると信じています。この研修成果がはっきり分かるのは自分が現地に帰っての教育姿勢にありますので、その事をしっかり頭に入れて授業するべきではないかと思っています。

関西旅行、東京見物、つくば博と私達研修生に対しての親心の表れのプログラム、私達は本当に嬉しく思っています。

郷里研修では、受け入れ学校が大変好意的で一週間びっしりのプログラムを組んでくれました。生徒や先生との交流でたくさんの人と人の絆を作りました。この度の研修、多くの知識も得ましたが、多くの人達との友情も得ました。人との出会いを大切に現地に帰りましたら、天職である教育に全力を注いで行きたいと思っています。最後に私達研修生のため、いろいろと心を配られ、暖かい心でお世話してくださった移住センターのみなさんや本部の方々に厚くお礼申し上げます。

ブラジル国パラナ州

クリチバ日伯文化援護協会

佐藤三 窃 クララ

1. 当初、研修に期待したこと

国語の基礎、文化、そして社会などを勉強したいと思って来ました。日本語学校の先生として、日本と言う国を知ることはたいせつである。それに日本へ留学したいと言う生徒が多いです。ですから先生方によく日本のことを質問されますので日本を知りたいと思いました。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

三世、四世の生徒達に日本人の心と言うものを知ってもらいたい。ですからできるだけ日本の文化や歴史などを深める。もちろん読み書きも必要です。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- a) 夏期スクーリングについて、センターからかよったほうが良い
- b) もっと色々な学校を参観したい
- c) センターで授業、外国語として日本語が一番よかった。ですからできればもっと時間をふやしてほしい。

4. 所 感

国際協力事業団1985年6月16日から9月13日、3ヶ月わたって行なわれた研修会は、世界各国の先生方と共に日本で日常生活を体験し、研修旅行が出来、生涯心に深く残る経験でした。これを機会にこれから後も日本語教師としてはげみ、日本文化について知識を深め多くの人へ伝えて行きたいと思います。

ブラジル生れの私にとっては、一世の先生方といっしょに色々なことを学ぶことが出来て本当にしあわせでした。

国際協力事業団はじめ、そして海外移住センターの皆様大変お世話になり、心から厚く御礼申し上げます。

ブラジル国リオグランデスル州

カシヨエラドスール日本語学校

菅野初江

1. 当初、研修に期待したこと

1. 外国語としての日本語
2. 現在の日本文化
3. 現在の教育方法

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1. 現地の教師、生徒達の父母兄に報告し、又共に研究し、協力していきたいと思っております。
2. 私自身向上のためにもう一度ノートをひろげ復習したいと思います。
3. 一期、二期、三期で学んだリズム、リトミック、表現教育、音楽、図工、折り紙などを取り入

れて有意義ある教育をしたいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1. Aコース諸先生方との再会
2. 塾生活の改善
3. 学校参観の増加
4. 本邦研修生の増加

4. 所 感

研修生として推せんされたときは何と夢のようでした。通知があって始めて実現したことを嬉しく又どんな授業が受けられるのかとちょっと不安も有りましたが、でも29年ぶりに祖国を見られる嬉しさに胸をふくらませて日本にやって参りました。

日本は今、経済文化として世界で二番目と聞いておりましたので自分自身この目で見ることができ、又教育方法も大変かわっているとのこと、ひとつでも多く身につけたい一心で参りました。到着した時期は入梅でおよそ一ヶ月間太陽を見ることが出来ず蒸し暑い日々を通学するのが大変苦痛でしたが授業中は一生懸命に講義を聴きそれから表現教育、リトミック、体育、音楽など先生諸方自からの熱演で自分の年を忘れ子供に返って踊ったり、跳たり、楽しい思い出となりました。

玉川学園の教育方法、全人教育を中心としての教えも自分の体で身に付けることが出来ましたことを講師の方々に深く感謝申し上げます。

又、郷里研修につきましては風速中央学校の校長先生と現在の教育について話されました。生徒は昔にくらべると1/3に減っておりました。校舎の設備も非常に良く便利になっていました。

Aコース、Bコースの先生方には大変お世話になりました。お礼申し上げます

最後に関係者の皆様には大変お世話になりました。深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

パラグアイ国アマンバイ県

アマンバイ日本語学校

花岡早智

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 現在の日本を知る
- (2) 日本語を楽しく授業する為の教授法
- (3) 玉川大学における教育と低学年授業参観

- (4) 音楽リズム遊びについて
- (5) 図画工作の指導法

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- (1) 一期、二期、三期と三ヶ月を過ぎて多くの先生方に教え、指導して頂いたことを帰国して任地で少しずつ教え伝えていき、今後は今まで以上に楽しい学校生活に他の先生方とお互いに協力し努力していきたいと思っています。
- (2) 後継者という意味で二世教師の養成に努力したいと思っています。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) とても捻り多い研修だったので今後共、こう言う機会を設けて頂きたいと思います。
- (2) 特に後継者ということで二世教師の長期研修もお願いします。

4. 所 感

二十七年振の日本で高度な経済成長、交通の発展に驚き道路は田舎のすみずみまで枝が伸び舗装されていました。でも私の予想外に緑も多く玉川大学は素晴らしい景色でした。それは一言に言い表わせない素晴らしい所で、大原学長先生の築き上げた立派な学校、人間性の偉大さに驚きました。

教育は、環境だと申されますが、全くこの事でしょうか。理想的な環境の中で学ぶ子供達、そして教養豊かな立派な先生方に恵まれ、素晴らしいと思います。その恵まれた環境の中で私達も生徒の一員として三ヶ月間共に、家庭の事も忘れて勉強に専念出来たことは、国際協力事業団の皆様の御協力と玉川の学長先生、諸先生方の熱心な講義のお陰だと思っています。

玉川のどの先生方の講義の中にも誠の教育とは、真の教育とは（全人教育）、子供達の為に子供達一人一人を大切にすることであると教師とは常に新しい事を取り入れ、教材研究しなければならない、つまり教育とは愛し育てることであると言う言葉が印象深く残っています。

「人のいやがることを自分から進んでやろう」人間関係の大切さ、玉川での塾生活、夏期大学劇作の会の出会、数多くの人々との交流がいかに大切であったか、続いて日本の伝統を伝える為の懐石料理、歌舞伎鑑賞、鎌倉ツアーなど、その上高度な文化工学技術、科学発展、今年は幸にも恵まれていまして、つくば万博見学させて頂きまして経済成長の発展の素晴らしさを見る事が出来本当にありがたく、生徒達に伝える事が出来ます。当初の研修に期待したことが収穫出来たように思われます。この玉川の教授法により私も新たに教師とは、という視点で見詰めなおすことが出来ると思います。さらに他の国々から多くの先生方との出会、研修の先生方との出会、一緒に研修し生活出来たことは、これからの私の日本語指導に役立ちます。

最後に改めて今回研修に参加出来たことは、国際協力事業団の皆様の御協力と玉川大学の学長先

生、諸先生方、センターにお出下った先生方に深く感謝します。本当に有難うございました。

そして、このグループの為にいろいろと細かい事でお世話して下さいました団長さん副三阪さん、竹村さん本当に有難うございました。皆様のご親切を忘れず今後の日本語教育に頑張っていきたいと思えます。

簡単ですが所感と致します。

パラグアイ国イタプア県

ラパス日本語学校

弥 政 忠 義

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 子供への接し方
- (2) 教師はどうあるべきか、教育者としての姿勢
- (3) 全人教育とは何か
- (4) 補助教材の開発
- (5) 授業参観を通して授業の進め方
- (6) 学級運営

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この研修の評価は、三ヶ月の研修成果を今後の日本語教育に、どのように生かしていくかにかかってくると思う。15年間思考錯誤の繰り返しで今日まで日本語教育に携わってきたが、今回の研修で目の前の壁がさっと、とりはらわれたような気がする。教育はまず教師自身の自己変革がなされなければならない。玉川学園の創立者小原国芳先生の訓に“進みつつある教師のみ教える資格あり”とあります。この言葉を生涯の指針として「日本語教育の対象は子供達の感覚、感情、思考、思想の発達に無縁であってはならず、最もそれに近いところに位置づけ言葉の機能をふまえて、子供達がすでに経験し、持っている言葉の体系から導き出された言語活動を行きた知的活動としてとらえ、人間と言葉の関係における精神発達のあり方に習熟していく」という教育の本質を見失うことなく、言語経験の畑を耕し、子供達が明るく伸び伸びと次代を担うたくましい国際人に育つようこの三ヶ月の研修を土台にし、多に活用して現地の日本語教師と共に研鑽し、芭国日本語教育の発展に努力する決意です。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 本研修制度の継続と増員（後継者養成のためにも、二世、三世の教師の養成制度の強化）

(2) センター内の食事の再検討

長年、中南米でボリュームある肉料理に慣れてしまっている私にとってはセンターの食事は軽すぎ、物足りなかった。体重も約六キロを減少する苦しい生活であった。個々の嗜好の問題もあるので自由食にして欲しかった。

(3) 何年ぶりかの帰朝で、ゆっくり友達とも雑談したかったが、それぞれ仕事があり、夜しか会えず門限が十時では東京、新宿方面に出た場合、八時過ぎには出発しなければ門限に間に合わない。常識有る成人者であるので土曜日と日曜日だけは十二時の門限にしていなければゆっくり友達との雑談もできたと思うので考慮して欲しい。

(4) 学校訪問と授業参観の時間がもう少し欲しかった。

(5) 玉川大学サマースクーリング入塾の再考

4. 所 感

この三ヶ月勉強だけに専念できる機会を得たことを大変光榮に思っております。この三ヶ月を振り返ってみて本当に実りある豊かな研修であった。しかし教育の本質を学び人間形成上最も大切な時期の子供を教育していく責任の重大さ、難しさに悲鳴をあげて逃げ出したくなるのも本音である。

指導法にしても、学習は本来個別的なもので、理解にしても表現にしても、それは個人的な作業だと思ふ。したがって1人1人を生かす子供の主体性、自主性を育てる形態をとり、一斉指導とグループ学習、個別指導の有機的な関連とその適切な組み合わせによって生き生きとダイナミックな学習を子供の立場に立って展開していきたい。「人生の最も苦しい、いやな、辛い、損な場面を真っ先に楽しい、漢字を覚えるのがおもしろい」と子供が言うような好きにすることが指導者に課せられた責務だと考える。教師が好きな教科は、子供も好きになると言われる。自分の過去を振り返ってもそうであった。教師自身がまず好きになることである。そして自ら学びとるための具体的な方向を子供のものにしてやる。自ら学ぼうとする意志を鍛え、教師の教育に対する情熱と努力で教師自身が人間として教師として魅力的で資質と品位をもち自己評価をしつつ子供の1日1日の成長を見守り、励まし、子供と共に学び共に遊び悔いのない人生を謳歌していきたい。出身地研修も校長先生をはじめ所先生方の温かい歓迎を受け、わずか二日間の研修ではあったが、教師として大変参考になる。現地に返ってすぐに役だたせることができる実りある研修であった。

この研修のためにお世話下さった事業団の皆様、そしてお忙しい中、貴重な時間を削いで懇切丁寧に御指導下さいました諸先生方、本当にありがとうございました。

最後にみなさまの御健康と御多幸をお祈りいたしまして研修報告と致します。

アルゼンティン国ブエノスアイレス市

アカスーソ日本語学校

木田 祐子

1. 当初、研修に期待したこと

1. 外国語としての日本語指導方法
2. カリキュラム作成について
3. 経済大国である日本を知り視野を広める
4. 複式授業の効果的な指導方法
5. フォークダンス、リクリエーション、学習発表会のリズム指導

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

第一期、二期、三期にわたる三ヶ月の研修をふり返り、特に玉川大学の講義はすべての先生が同音におっしゃるように教師は子供の心に返り、子供の気持ちをよくくみとって指導せねばならぬ「教育は形よりも心である。理論よりも精神である」と、これらの教えを指導の理念として日系子弟の指導に努力したいと思います。

日本語教師十数年の体験と、この三ヶ月の本邦研修の成果とを融合させて、最近特に一世教師が少なくなりつつある現状で後継者である二世教師の育成に少しでも力になればと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

日本に着いた当初は、疲労と時差ぼけもあるので、時間的にゆとりのあるスケジュールを研修が始まる二、三週間は組んでほしい。

センターでの講義は現地に於てもすぐ応用出来るものなので、期間を一週間程度延期してほしい。

玉川での体育の時間にフォークダンス、リクリエーション、リズム指導をしてほしかった。

現在の日本の教育を肌で感じる為に、学校参観をして、子供達と共に笑い、語り、歌ってみたかった。

聞く研修も大事ですが、目で見ると研修は大変強烈な印象を与えます。見る研修、見学も多く体験させてほしいと思います。

4. 所 感

23年振りに、ふるさとの土を踏みました。成田から横浜のセンターへ向うハイウェイでは、日本に着いたという実感がわかりませんでした。まるでブエノスアイレスのヘネラルパスを通過しているように思われました。バスの窓から外の景色に目をやると、整然と植えられたばかりの田んぼのイネ

が風にたわわっているのを見て私は日本に入るのだという実感がおそまきながらわいてきました。
さて、いよいよ玉大での研修が始まりました。

第一期、日本文化研修及び特別講義、第二期教育方法学習期間、日本語教師の基礎的な教養として、これらの講義は不可欠のものと思われまます。日本語教育の対象は、日系人ですから、日本語を教えると共に、日本人の心を培うものでなければならぬと思います。玉川での講義で、先生方は、時折、講義なさいました玉川の全人教育は、学問、芸術、宗教、身体生活の調和的な教育を目標とし、知性、感情、意志の円満な人間形成を目指すものであると、運動がよく出来てきれいな心がなかつたら野郎学問がよく出来てやさしい心がなかつたら悪魔であると、小学部では、この理念に基づいて豊かな人間性と社会人としての資質を養うため、消い心、よい頭、強い体の育成を大きな目標としています。「日本語を考える」の講義では、人間形成の構造は遺伝的要因と環境的要因とから成り、努力による意図的な自己教育によりこれらの要因が伸ばされるのである。人間は生まれた時は人、社会学的には人間であるが、人間となる為には教育が必要である。又、知は英知、理知、術知、直知、世知から成り、人間は教育される可能性があるだけに教育されねばならぬと教えられました。スクーリングでは国語の専門的な講義と取り組みました。

印象的なのは筑波の万博です。全世界の注目を浴びているEXPO85は聞きしにまさるすばらしいものでした。「21世紀への遺産、科学する心を育もう」日本の工業界のめざましい発展ぶりを目のあたりにして、深い感銘をうけました。それと同時に南米の後進性と貧弱さを身にしみて思い起こしました。ふるさとのすばらしさを伝えるのも私達のつとめではないでしょうか。現地での日本語教育はこれといったパターンがなく、手さぐりで問題解決に当らねばなりません。あくまでも体験からわり出されたものです。日本語教師として十数年が過ぎましたが、これらの体験論と本邦研修の講義とを融合させて、日本語教育に一増の努力を惜しまないつもりです。最後になりましたが、国際協力事業団、玉川大学の先生、センターの皆様、どうもありがとうございました。心から御礼申し上げます。

ボリヴィア国サンタクルス市

サンタクルス日本語学校

志賀美和子

1. 当初、研修に期待したこと

1. 外国語として日本語の教授法
2. 複式授業のよりよい方法を得たい。
3. 教材教具の作成法
4. 教師としての姿勢は如何あるべきかについて

2. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

この度の研修で、先生方の暖かく熱心にご指導頂きました中で私なりに習得したものは日本文化の交流と親子、教師、一身体となり、教育は人間と人間(心と心)の触れ合いであり又、教師は子供にとって鏡でもあり自分自身をふり返り責任ある行動を取るべきだと思う。3ヶ月の短期間ではありましたが教師としての姿勢(根本)を学び中でも(音楽、リトミック、美術、体育)等は肌で直感出来、私の学校教室を心豊かに、そして楽しく子供達と授業が出来るよう又、社会見学によって現代の日本文化を認識出来、巾広く私なりに習得分をこれから活用して行きたい所存でございます。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1. 本邦研修制度をこれからも継続させて頂きたい
2. 上記参加人員の増員願う
3. 研修に先だち予備知識がほしい

4. 所 感

教師として自信もなく基礎能力もない私がこの度の大学で研修を受けて理解出来るだろうかと言う不安をいだいて参加致しました処、事業団の方々の暖かいご配慮、玉川大学のご親切熱心なご指導をいただきまして期待以上に充実した内容、誰にでも理解出来るように講義して下さいました事は大変有が度く感謝しております。長いようで短かった3ヶ月その間いろいろと学ぶ事が出来ました。特に音楽、リトミック表現教育、美術等は肌で直感出来、又社会見学によって現代の日本文化を認識出来視野も広められました。又夏期スクーリングでの学生に交じり塾生活、夏期大学長岡での即興劇実習、センターでの講義(すぐ役立つものばかり)出身地研修(教材、教具の揃った中での子供達の授業風景、今昔27年ただ驚くばかりであった)これからは玉川全人教育を取り入れそれ々学んだ教料を振り返りながら私の学校教室を心豊かに楽しい授業が出来るよう努力して行く所存です。

この機会を与えて下さいました国際協力事業団の方々、玉川の諸先生方、センターの皆様にご心よりお礼申し上げますと共に御多幸とご健康をお祈り致します。大変ありがとうございました。

ドミニカ共和国ラベীগ県

ラベীগ日本語学校分校

川 畑 澄 代

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 楽しく授業を進める教授法

- (2) 子供達の日本語に対する関心をいかに引き付けるか
- (3) 教師として視野を広め自己研鑽習得
- (4) 複式授業の効果的授業法

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研究の生かし方等）

全人教育の理念が少しでもわかった事です。

日本語教育の効果を高める為に音楽や折り紙を取り入れたり、ミュージカル劇や朗読劇を使って子供達に日本文化を少しでも教えて行きたいと思います。

他の国から来られた先生方の教え方を知る事ができてとても為になったと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 二世教師養成をドミニカも来られる様に望みます。
- (2) このまま3ヶ月コースの先生の研修を続けて欲しいと思います
- (3) 電車通学に慣れた頃に入塾したので、又慣れるのに少し負担になりました。塾生活をもう少し涼しく出来たらと思います。

4. 所 感

農家に育った為、中学卒業後勉強もできないままドミニカへ渡りました。そうして十二年前、何の経験もなく教師になりましたがその間二回病気の為休校になったので子供達は益々日本語ばなれをして行った為、どうすれば良いか悩んで居たので今度の研修は大変良かったと思います。今まで私は先生と言うよりおばさんと言った様な気ままな子供達とやって来ましたが、今度の研修で強く反省させられました。それは先生と生徒の間は水車と水の様になくはないといけないと言う事です。水の中につかりすぎても回らない上りすぎてもから回りするばかりと言う事を聞いてうなづくことが出来ます。今後は今までの研修を全て応用できたりヒントとなって役立てたいと思います。例えば、日本語教育を短期間に効果を上げる為、折紙やカードなど利用していきたいと思います。

それと毛一つ玉川大学の素晴らしい先生方やセンターまで来て下さった先生方の講義ばかりでなく教師としての生き方により多く教えられることが有りました。又29年ぶりに日本は創造以上の発展で日本の文化を知る事が出来た事も良かったと思います。その他、日本に来て胃を悪くしましたが、国際室の先生方や同胞の先生方のおかげで一日も勉強を休まず済み、無事治療できて本当にありがとうございました。

このすばらしい研修の機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様、玉川学園の諸先生方移住センターの皆様方に心より感謝申し上げますと共に、御多幸と御健康をお祈り致します。有難うございました。

コロンビア国バジェ県

コロンビア日系人協会付属

日本語学校ひかり園

柴田 富士子

1. 当初、研修に期待したこと

- 1) 教師として教師たるべく教養を身につけること。
- 2) 現地で適応する日本語教授法の習得。
- 3) 出来るだけ多くの小学校及び外人の日本語学校の参観。
- 4) 複式授業に対する効果的指導法。
- 5) 日本文化の習得と現情。
- 6) 日本語に興味をもたせる指導法
- 7) 研修生から現地日本語学校の状況を知りたいこと。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 1) 現地における日本語指導に対する責任の重大さをひしひしと感じ、玉川学園での全人教育をしっかりと心に抱き「鋭きも鈍きもともに捨てがたし、きりと槌とに使いわねば」の名言の様に一人一人の個性をひきのばし大切に育てて行かなければならないと思った。
- 2) 現地での日本語は義務教育でないため親に強いられてなぜ日本語を習うのかといった子供達が多いので玉川で習った音楽、手あそび、センターで習ったコミュニケーション、ゲーム等あそびながらの指導を取入れ、想像力、思考力を養い、授業の単調性を破り、刺激を与え興味をもたせる様努力したい。
- 3) 事業団から“日本へ渡航する前に習得しておくべき日本語の基礎は大へんよい目標になりました。出来るだけその目標を目指して指導し、出来るだけ多くの子弟を日本に送りたいと願う次第である。
- 4) 「進みつつある教師のみ人を教える権利あり」の格言通り教師としての努力と前進を続け、生徒は先生の鏡、先生は生徒の鏡である様になりたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 1) この三ヶ月の研修は大へん有意義でしたので、より多くの先生にぜひ来てもらいたいと思います。
- 2) 第三期におけるセンターでの授業があまりにもかけ足的だったので、もう少しゆっくり具体的に習いたいと思います。現地指導にとってもっともふさわしい内容でありました。

3) 授業参観の回数を増やしていただきたいと思います。

4. 所 感

移住五十五年になるコンビアでは、移住型の日本語教育から時代の流れと共に外国語としての日本語教育に変わりつつあるのが現情です。日本経済成長の偉大なる発展と共に最近特に日本語教育の重要性が叫ばれている今日、父兄と教師が色々頭をしぼり、その普及と推進に努力をしていますが、果してその子供達はというと義務教育でない日本語であるため親に強いられて通っている子が殆どで、なんとか興味を持たせなくてはと、なやんでいた時でしたのでこの三ヶ月研修に参加させていただいたことは誠に有難たいことと感謝いたしております。強いられた授業ではなく自分からとび込んでいく様にさせるにはどうしたら良いかを私はこの研修で掴めたように思います。特に低学年の子供達には楽しいあそびの中で日本語に親しませ、詰め込み的な指導法から肌で感じ吸収させる指導法を行い、全人教育による人格形成と国際的に活躍できる人間にと育てる様努力する覚悟です。

現在特に注目をあびている新教育のメッカ玉川学園での研修は大へん素晴らしく充実した内容で感銘すること数々ありました。環境の良さを筆頭に優れた教育施設、体育施設、音楽施設の完備、又全人教育をバックボーンに指導なされた諸先生の間味あふれる温かさと熱意にもえるお姿でした。又、小学六年生が毎日二人交代で電話受付と、お客様のお茶当番させられ、その日は自習をするという生きた勉強を体験で習得していたことでした。

第二期スクーリングは猛暑と戦いながらの塾生活で少し辛い思いをしましたが同じ目的を目指して集った全国からの若い方達と一緒に学び、語らい、歌い、働き、心のふれあいを深めた尊い生活体験でした。課外合唱にくわわって歌いまくり、子供の国へハイキングに行った思い出は強く心に残りました。又、伊豆長岡での夏期大学は表現力、創造力をのばすための大へん有意義なそして温泉につかり命をのばした楽しい三日間でした。

第三期センターでの授業、これこそ現地にふさわしい興味を唆る内容でした。正善先生のアクセント・カルタは大へん役に立ちます。

地方研修には、沖縄まで行かせていただき、素晴らしい研修と海博を見てまいりました。日本語教授法をはじめ教師として持たなくてはならない数々の知識を習得させていただき又、国内の研修旅行を通じ日本の歴史、社会、現情等についての認識を深めさせていただいた有意義な研修を与えて下さった国際協力事業団の皆様、玉川学園の先生方、国際教育室、通信教育部の方々、センターまで足を運んで下さった先生方、本当にありがとうございました。三ヶ月の尊い教え、すばらしい思い出を心の糧として現地で頑張ります。又、今後ともよろしくお願い申し上げます。

1. 当初、研修に期待したこと

- 1) 小学校の国語教師としての基礎知識の習得（教材の扱い方学級管理等々）
- 2) 幼児期から形成期にかけての言語教育の留意点及び指導法について

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 1) 研修中に学習した事をどのように消化し、現地教育と結びつけていけるかを考察し、自ら実践したデータを揃えて今後日本語教育に当る人達の参考となるようにしたい。
- 2) 幸に言語教育の原点と思われる事柄についての講義を受けたので、教師研修会等機会ある毎に一緒に討論してみたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 1) 目的を一つにしぼって欲しい

限られた期間内で現地に役立つ知識習得、団体生活の体験、若人との交流等三つも四つも一度にできない。私達が日本でなければできない、学べない事を優先させて欲しい。

- 2) カリキュラムについて

現地で研修書類提出時に、目的や期待する事等記入したので、できる限り参考にして欲しい。22科目を一ヶ月余でするのは多すぎるので日本語教育に関するものにもっと時間を取って欲しい。今回の講義で重複したと思われる科目、a) 音楽 [教師三人で6コマ]、b) 表現教育、リトミック、体育 [教師4名11コマ]、c) 習字 [センターでのレッスンと重複]、d) 玉川 全人教育論 [誰か一人代表で講義する]

本を読めば分るような一般論の講義は不要

A, Bコース別々の方が良いと思われる。

- 3) スクーリングについて

塾生活は良し悪しの問題ではなく限られた時間内で何が優先されるかを考える事だと思う。受講科目の準備と与えられた参考書に目を通して行くのは学生としての礼儀だと思うが、あの生活では消化する時間がとれなかったし、体力的にもきつかった。

若し人達との交流よりも教授陣との交流に心がけ能動的学習を計る良い機会ではなかったか。宗教的行事も一緒にするのは苦痛であった。全人教育論は各々の大学が持っている教育理念の一つとして捉えた。

4. 所 感

◎ 講義を受けた科目や集めた教材はその都度ある程度消化しておかないと、帰国してからでは記憶も薄れ資料も膨大になり利用率がさがるとは思わないか、又、質疑があっても解決に手間取るだろうという予想が常にあり、もっと時間的な余裕が欲しかった。スクーリングでは特にその感が強かった。

いずれにしろこの3ヶ月間全く別の環境の人達と一緒に生活できて、今まで伺い知れなかった国の様子や生活を直接聞く事ができて大変興味深かった。自分の中途半端な生き方に対して研修生の大半が外地に居ても、しっかりと日本人的な物の考え方でかなり保守的に生活しておられるに驚いた。移住先の環境の為でもあろうか。

◎ 約1ヶ月毎に生活環境が変わるのに閉口した。健康問題に関しても細い記録を取り、データーを出したら興味深いものが出るのではないか。

◎ 日本政府、国際協力事業団という所がどんな仕事をしているのか移住者に対してどんな姿勢を取っているのか少しずつ分って来た。

◎ 十分な資源がないにもかかわらず、物がそまつに扱われ、少し不安になった。日本をかなり客観的に見る事ができた。階級、年齢、貧富等の色々のワクを取り去って対等に討議できる土台はまだできていないように思った。

◎ 今まで意識して考える事もなかった移住とは何かという事に対する論議があり、胸をつかれた短期間であんなに深く捉えた事に驚いた。移住者自身、その関係者ですら気付いていなかった事ではなかったらうか。

◎ 今回の研究機会を与えて下さった事、そして直接、間接に御世話下さった方々に心から御礼申し上げます。

ウルグアイ国モンテビデオ市

日本人会付属日本語学校

山 田 美 枝

1. 当初、研修に期待したこと

- ・ 教師として如何にあるべきか、基本的な知識を学ぶこと。
- ・ 初めてウルグアイ国より参加するので、これを機会に、各国の日本語教師の方々より、現地での実情を聞き、横への連絡を広げること。
- ・ 現地に於ける日本語の教育指導法、特に日本語を家庭で使っていない子供達に対する指導法を研究すること。
- ・ 二世教師を養成する為には如何にすべきか。

- ・ 教材・教具が不足なので、今後の教育方針を立てる為に出来るだけ集めたい。
- ・ 日本の文化・伝統を学ぶと共に、日本の社会の現情を知りたい。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- ・ 玉川教師訓を実行する。
- ・ 全人教育に基づいた教育法を取り入れ、日本語を学ぶことにより人間性豊かな日系人に育つように努力したい。
- ・ 低学年の遊びながら、楽しく覚える日本語の指導法を取り入れる。
- ・ 玉川学園の音楽・図工・表現教育・リトミック等、又、伊豆長岡での学校劇夏期大学の指導による尊い体験・其の他観劇等を通じて学んだことを伝えたい。
- ・ 寄贈を受けたり、自分で購入した教材・書籍を現地にもどり読みなおし、この研修の成果をあげるように努力したい。
- ・ ウルグアイには、日本語学校が一枚しかないので隣国とも連絡をとりたい。
- ・ 二世教師の養成に力を入れること。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- ・ ウルグアイより今回この本邦研修に初参加して有意義な三ヶ月の研修を受け、今後ウルグアイにもこのような機会を与えていただきたいと思います。
- ・ 新しい教材・教具が手に入りませんで参考資料が欲しいと思います。
- ・ 第三期のように直接現地での日本語指導に役立つ授業の時間がもうすこし欲しいと思いました。
- ・ 出身地研修の際母校である小学校を参観して、先生方、子供達とも話合うことが出来て、とても良い勉強になりましたので小学校等の学校参観がもう少し日程に組まれて居れば良かったのと思いました。

4. 所 感

6月14日に成田へ到着以来、国際協力事業団の皆様・玉川学園の皆様の暖かい真心のこもった御指導と、御配慮のもとに、この三ヶ月間を研修にだけ専念することが出来ました。その上、数々の感激の日々を過ごすことが出来、この有意義な研修を受けた幸せを今かみしめて居ります。又それと同時に、現地にもどってこの学びの数々を如何に活かすか責任の重大さを感じて居ります。

第一期、第二期の玉川学園での授業では、諸先生方の人間性豊かな情熱のある、そして笑顔を絶やさぬ御指導のもとに、子供達を如何に指導していくべきかの数多くの教えを受けたことは幸せでした。又、伊豆長岡での学校劇夏期大学では、初めて即興劇にも参加して、参加した全員が一夜で旧知の間柄になれたのは、すばらしい経験でした。

玉川学園への往復の途上は、社会見学で日本の現状を知ることになり、又各先生方が打ち解けて現地のことを話合ったり、お互いに助け合ったりしたことは大きな喜びでありました。研修の合間に京都・奈良・東京・鎌倉見学や、民族舞踊・歌舞伎・能・狂言・寄席の鑑賞、又、懐石料理・精進料理に至るまで、日本の伝統・文化を一通り学ぶことが出来、出身地研修では、なつかしい母校も訪問することが出来ました。この研修の為に、ここまで準備して計画を建てて下さる御苦労は大変なものと同様に感謝して居ります。

現地にもどり「進みつつある教師のみ人を教える権利あり」の言葉通り、絶えず学びながら日系子弟の日本語教育のお手伝いを続けて行きたいと思っておりますので、今後ともよろしく御指導の程お願い申し上げます。

最後に改めて国際協力事業団の皆様、並びに玉川学園の諸先生方、国際教育室の皆様には厚く御礼申し上げます。

研修総括報告書

期間：1985年5月17日～1986年3月20日（Bコース）

ブラジル国サンパウロ

松柏学園 大志万語学

協同学院

上 田 恵 美

1. 当初、研修に期待したこと

1. 教育者としてもっていなければいけない基礎的な知識の習得。
2. 日本語（国語）の基礎を学び、それに基づいて外国語としての日本語の教授法を習得する。
3. 日本人の心、日本国の真の美しさを自分の目で見、自分の身体で感じ、実際の経験を通して心を広め、視野を広める。
4. 祖先の国、日本を訪れることによって「私」の生命の源を探り、自分の道として選んだ日本語教育の尊さを考える。
5. 日本国の底に内在している伝統を学ぶことによって日本の文化、国民性について考え、理解する。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1. 音楽やリトミックや表現教育のように、だいたい日本と同じようにそのまま生かせるものはさっそく子供達に指導し、大勢の先生方に伝えたいと思います。
2. 日本語の勉強をすれば、する程勉強がまだまだ足りないということが分かって来ます。現地に帰ってからも教えることだけでなく、自分の勉強する時間をも是非つくりたいと思います。
3. 授業中の教わった一つ一つのことを今度現場で自分の身体を通して実際に経験をしてみたいと思います。色々な問題に出会った時、先生方のお言葉を思い出し、問題を自分で解決することが出来たら教わったことは初めて本当に自分の物になり、身に付けたと言えるのではないかと思います。その時点で大勢の方々に自分の経験を伝えたいと思います。
4. ブラジルでは子供を教えるための教材等がよく研究されています。しかし、日本は最近経済大国として世界中から注目されています。そのためブラジルでも大人になってから日本語を学びたいという方が大勢いらっしゃいます。ですから成人の為の日本語教材を作り、研究をしてみたいと思います。新宿日本語学校で受けた研修はその点大変役に立つと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1. 玉川大学での九ヶ月間の研修を三～五ヶ月間にしぼっていただきたいと思います。
先生の御都合もいろいろあると思いますが、私達のように往復に四時間もかけて一時間の授業のために玉川まで通うのはとっても辛かったです。一日に三時間位入れていただければ少々疲

れても行った甲斐があり、あっと言う間に過ぎてしまう九ヶ月間の一瞬一瞬を大事に過ごせた満足感が強く後から感じられるのではないかと思います。五ヶ月間位あれば玉川の精神を理解することが出来ると思います。

玉川では、全人教育を通して教育者の姿勢はどうあるべきかを理解することが出来、子供の心の動きを先生方の経験を通して理解出来るようになりました。このように玉川で私の一つの大きな目的が十分に達せられたと思います。しかし、それだけではいけないと思います。私達は外国で日本語を教えます。先生方に教わったいろいろなことの中には日本の教育に合っている外国の状況の中で利用出来ないことも多かったと思います。ですから研修は玉川だけに限らず、他の外国人に教える経験のある学校でも行われることが出来たら良いと思います。

2. 玉川大学の先生方を北中南米へ

事業団の方をはじめ出来ることでしたら、これからずっと研修生を指導なさる先生方に北中南米の日本語教育の状況、事情調査のため現地へいらして理解していただきたいと思います。

3. 玉川大学の夏期スクーリング中の入塾について再検討

夏期スクーリングの三週間は日本のいろんな方と接触する機会としては本当に素晴らしいことでした。しかし、Bコースの私達は外国で生まれ、育ち、日本を初めて訪れるというのが私達の中の殆どでした。それぞれの国と風習、季候の違う日本、新しい生活、友達、規律に慣れるのにはやはり時間がかかります。体力的だけでなく精神的に大変疲れます。ですから一年も日本で研修を受けるBコースの健康、精神状態をも考えて玉川の塾に入ることが適切であるかどうかをもう一度考え直していただきたいと思います。又、どうしても経験をして見たい方もいらっしゃると思います。ですから大変わがままなことです、できることでしたら一人一人に選ばせるチャンスを与えていただけたら良いとも思います。

4. 国際女子研修センターで受けた授業を海外移住センターで行わせていただきたいと思います。

玉川大学の塾と同じく短期間に新しい場所で規律に慣れるための神経を使うことを少しでも減らすように先生方を海外移住センターに呼ぶことが出来たら大変ありがたいことです。海外移住センターに整ってある設備で十分に授業を行うことが出来ると思います。

5. 日本人の日常生活を実際に経験してみることが出来たら良いと思います。

日本、日本人のすべてを理解するためにはみじかい期間でもよろしいと思いますが、ホームステイの形ででも日本人の家庭に入り、一日一日を一緒に過ごしてみることは大変大切なことだと思います。しかし、それも出来たら日本の生活に慣れてからにさせていただけたら良いと思います。

6. 日本の方々を出来るだけ多く見学する機会をつくっていただきたいと思います。

日本は「小さい国」だとよく言われていますが、北海道から九州にかけてはいろんな「日本人」が存在していることは事実だと思います。それをやはり体験を通して感じ、確かめることは日本の全てを理解するには大事なことだと思います。

7. 新宿日本語学校での研修期間を延ばしていただきたいと思います。

わずか六日間の研修でしたが、全てが参考になりました。未だ未だ習得することが山ほどあり、先生方が私達に伝えたいということも未だ一杯あるようでした。時間がもうないという事実を本当に惜しい程残念に思いました。この学校は外国人に日本語を教えていますので私達の問題点や立場を良く理解しています。又、日本語を外国語としての立派な教授法をもっています。先生方の研究したこと、経験したことを出来るだけ大勢に伝えたいという熱意には私は本当に感動しました。

8. 日本語力を指導を受けながら高める機会を設けていただきたいと思います。

いろんな国から様々な経験、過去、日本語の知識をもった一人一人が同じであることは絶対有りえないことだと思います。日本語力が関係なく内容の方が大切であった授業が玉川では殆どでした。先生方も出来るだけ分かりやすく説明して下さり、ある面では心配していろいろ御遠慮もなさったと思います。しかし本当にみんなのためを思うと出来るところまで日本語力を高めたらもっともっと良い授業が出来るのではないかと思います。日本語力を短期間に高める機会を与えて下さる、例えば新宿日本語学校、国際学友会のような学校に通い、一人一人の力に応じたクラスに入り勉強することが出来たら良いと思います。又、その学校の先生方の教え方を見ることによって教授法を実際の経験を通して習得することも出来ると思います。

9. 自由研修の時間を設けていただきたいと思います。

みんなそれぞれ日本に来て、勉強の中から何かをもっと深く研究してみたいという気持ちがあると思います。私は今回、四ヶ月程、茶道を学びました。日本でしか味わえない何とも言えない静かな雰囲気の中でお手前をし、心がとっても落ち着きました。茶道を通して又一つ日本の心を理解することが出来たと思います。このように自分が関心を持っている日本独特の何かを深く学ぶことによって、いろいろな道が目の前に開けて来たりするのではないかと思います。

10. 海外移住センターで行われた授業の時間をもっと増やしていただきたいと思います。

落ち着いて勉強をすることが出来、いらっしゃった先生方はみんな熱心に参考になるものを教えて下さいました。

4. 所 感

私は、経済大学を卒業致しました。しかし、去年の二月、日本語教育の道を歩む使命に気付かせられ、その道を選ぶことに決心致しました。

日本国の表面に表れている部分しか知らない私、又教育者の立場をよく理解していなかった私は生徒達に自信をもって指導することが出来ませんでした。教科書に出て来る例えば「紅葉」という言葉を実際に日本の紅葉を経験したことのない私はどのように生徒にそれを本当に感じ取らせれば良いのかが分かりませんでした。国際協力事業団のおかげでこの機会に恵まれることが出来ました。

祖国ブラジル又、父母のもとを十ヶ月も離れたのは生まれて初めてです。終わろうとしているこの研修の一日一日を本当に「生きた」という感じが致します。うれしい時も悲しい時も、寂しい時もありました。予想以外の出来ごとがあり、様々な問題に出会いました。しかし、自分を頼りにその一つ一つを乗り越え、解決することが出来、十ヶ月の月日を過ごすことが出来ました。全てをプラスな面にもっていくようにと、何事からも何か良いものを覚えるようにといつも自分に言い聞かせ、実行するように努力致しました。そのお陰で私は日本とブラジルの風習の違いをあまり問題にしないで日本の生活に解け込めることが出来るようになったと思います。しかし、自分の力だけでは本当に何も出来ないということがよく分かりました。「友」の存在の大切さを深く強く感じました。この研修のお陰で「出会い」という言葉の尊さをも考えました。たった一つの優しい言葉、あるいは小さな思いやり、相手の立場になって行動することの大切さは身にしみる程感じる事が出来ました。

この十ヶ月間、受けた一つ一つの感動は私の心に奥深く刻み込まれています。一生忘れません。

私は本当に幸せだと思います。それは、わたしがブラジルも日本も両国とも愛する心を持っているからです。「教育は人なり」と先生方からよく聞きました。これからはずっと、ブラジルのそして日本の良いと思うものをどんどん自分のものとして、ますます自分を磨いて参りたいと思います。

この十ヶ月間教わったこと、体験したことの結果がすぐに出なくてもいつか身に着けたものは私の体からにじみ出て、私の周囲に静かな影響を及ぼすのではないかと思います。その時、はじめて指が何本あっても数えきれないほどお世話になった大勢の方々に恩を少しでも返せたことになるのではないかと思います。

日本の美しい心が日本の国に興味をもつ大勢のブラジル人を通してブラジルの心の中に浸透していくことを私は深く望みながら今日も明日も生命ある限り学び続けていきたいと思っています。この研修の十ヶ月間、世話になった全ての方々に心から感謝を申し上げます。

ブラジル国サンパウロ

マハーヤーナ学園

宗 仁 子 マルガレッテ

1. 当初、研修に期待したこと

1. 日本の四季の移り変わりを実際に見、肌で感じる事。
2. 日本文化の特徴をとらえること。

日本の伝統芸能（茶道、花道、書道）の勉強。

日本人の日常生活、習慣等を体験してみる事。

あらゆる分野の様々な日本人と接して日本語を話す事。

3. 日本語のレベルアップ（正確な日本語の習得）
 - 発音、アクセント、イントネーション等の勉強。
 - 日本語の文章表現力を身に付けること。
 4. 日本語を外国人に教える場合の教授法
 - 外国人に日本語を教えている学校等の見学。
 - 外国人に日本語を教えている学校での短期研修。
2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）
1. 現在、現地で行なわれている古くさい日本語教育でなく、新しい教授法を工夫してみたい。
 2. 子供に目的や意欲を持たせるような日本語教育を実践してみたい。
 3. 玉川で教わった表現教育やリトミック等を生かしてゆとりをもった、表現力の豊かな子供を育ててみたい。
 4. 直接法で（現地語を使わない）日本語だけを使いながら子供達に日本語を感じさせてやりたい。
 5. 海外日本語教育を担当なさった上原教授が教えて下さったような感情のこもった言葉を子供達に学ばせたい。
 6. 日本で教わった様々な事を基にして、現地の子供達に適した教材等をたくさん作ってみたい。
 7. 言語（日本語）を教えるだけでなく、立派な人間を育てたい。（人間形成）
3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項
1. 玉川での研修期間は四ヶ月～六ヶ月間ぐらいでよいと思います。玉川の先生方は、何を私達に教えたらいのかということをはっきり把握していないようで、後半期の講義等ではだいぶ迷っていらしたようです。
 2. 玉川の夏期スクーリングはあまり役に立ちませんでした。前もっていろいろと勉強している生徒達と共にあらゆる専門分野の講義をうけるのはちょっと無理でした。
 3. 女子研修センターでの一ヶ月間の研修はちょっと長過ぎると思います。茶道、花道や日本料理等、日本独特の文化を教わったことはとてもよかったです。でも、他に教わったこと（歴史、日本の家庭）は講師があまりよくなかったり、内容が古すぎたりしてあまりためになりませんでした。研修期間は一週間ぐらいで良いと思います。
 4. 日本語を外国人に教えている所（国際学友会、新宿日本語学校、ジャパンインターナショナル）等で1週間か2週間ぐらい研修すると良いと思います。
 - 特に新宿日本語学校では1ヶ月ぐらいみっちり研修すると良いと思います。この学校では、外国人に日本語を教える場合の問題点等を良く知っているのととても役に立ちます。
 5. 日本人と接して日本語を話すチャンスをもっとつくったら良いと思います。私たち二世、三世

の日本語の発音、イントネーションやアクセントはだいぶくるっています。でも、正確な日本語を話している人と話すことによってこれらを直すことができますと思います。正確な日本語をおぼえるだけでなく、ほんとうの日本人、又は日本家庭を知ることができると思います。

6. 私は日本語のレベルアップを期待して来日しました。でも研修一人一人の日本語力（レベル）があまりにも違うのでちょっと困りました。もっと高度なことを教わるのだと思っておりましたが、漢字があまり読めないような人もいたので、先生方はその人達のレベルに合わせてお話しをしたり、内容を説明したりなさっていたので、私のためにはあまりなりません。これからは、研修生のレベルによって組分けをしてから講義をうけるようにしたら良いと思います。
7. 一年間近く共同生活をするにはチームワークが非常に大切だと思います。私たちのグループにはチームワークを乱す人がいたのでいろいろと苦労しました。研修生を選ぶ時にはその人の人柄や共同生活ができるような人であるかどうかをチェックした上で選ぶべきだと思います。

4. 所 感

私は今回、初めて日本に参りました。日本は、私にとって、すごく深い意味を持っています。幼ない頃からいつも頭の中で描いてきた国です。父母の故郷であり、私のあこがれの国であります。

私は、いつか日本に来ることを夢みて、日本語を勉強して参りました。大学には行ってからは、私と同じような夢をいだいている子供たちに日本語を教えました。

今回、日本に参ることができたのは私にとって、長い間追い続けて来た夢の実現です。

私は、様々な目的や期待を胸にいだいて来日致しました。世界大国と言われている日本はどんな国なんだろう。戦争で焼け野原になったにもかかわらず急速なスピードで国をつくり直した日本人の強さはどこに秘められているのだろう。私が幼い頃からイメージしている日本と現実の日本はどのように違うのだろうなどと思いながら私は日本に参りました。そこで、現実の日本は、私がイメージしていた日本とだいぶ異なっていることに気が付きました。私は、欧米、文化をどんどん取り入れた現場の日本よりももっと日本らしい風景や日本人に出会うことを期待しておりました。現在の日本には、日本らしさや日本人の根性がだいぶ欠けているようです。学校でいじめられ、小学生等が自殺するなんて、ほんとうにとっても残念なことです。でもその反面、私がイメージしていた日本よりも、もっともっとすばらしい日本を発見することもできました。それは、日本の四季の移り変わりのすばらしさです。この十ヶ月間をとおして、私はじっくりと日本の四季の変化を味わうことができました。燃えるような若葉の春を見、じめじめしたうっとおしい梅雨を経験し、蒸し暑い夏を過ごし、すばらしい紅葉を楽しみ、厳しくて美しい冬を体験することができました。

四季の移り変わりを体験することによって、私か今まで意味を理解することしかできなかった短歌や俳句等の文句をしみじみと感じとることができるようになりました。又、冬になって、うさぎ小屋のような家々の屋根に雪が降り積もることによって、来日した時、すごくきたないなあと思っ

た東京や横浜の町がすごい暖かみを持った、別世界に見えて参りました。私は日本文化、日本人の心や生活を少しずつ理解することができるようになりました。日本文化のすべてが四季の変化と深い係わりを持っていることをつくづく感じさせられました。

この十ヶ月間、私は五感を働かせて様々な事を見たり聞いたり、感じたり、味わったりして参りました。玉川大学で日本語の知識を深め、国立劇場等で日本の古典芸能を鑑賞し、京都研修旅行等で日本的な雰囲気を感じ、いろいろととっても良い勉強を致しました。

帰国してからは、日本で教わった様々な事を多に生かして日本語を教えて行きたいと思っております。又、現地の子供たちに適した教材等をたくさん作り、子供たちが日本語を自らすすんで学ぶような日本語教育を実践してみたいと思っております。

最後に、国際協力事業団の皆様、玉川の国際部、並びに諸先生方に心から感謝申し上げます。人生で又と無いすばらしいチャンスを与えてくださってほんとうにどうもありがとうございました。

ブラジル国ロンドリーナ

ロンドリーナ州立総合大学

語学研究課

粉川 幸枝 イザウラ

1. 当初、研修に期待したこと

玉川学園についての情報はまったくありませんでした。もちろん、教材研究や、日本史や心理学などを勉強する事だとは思っていました。

日語教師にとって日本で研修できるという事は、重要な事であると大変喜んでいました。

日本では自分の日本語を上達出来ると信じていました。アクセントやイントネーションを正確にし、日常生活の会話、又は、境遇の会話、マスコミ会話などを身に付ける事が出来るのではないかと期待していました。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

正直言って、玉川大学でおそわったすべての事が良かったとは限りません。私達に不適當なスケジュールの方が多くあったと感じます。別にこの研修が無駄だったと言うものではありません。なぜならこれから現地で日本語に対しての指導方法を深く考えさせられたからです。教授方法、歌遊び、言葉遊び、ゲームなどのちょっとしたポイントが見せられました。そのポイントを自分でよく利用し、工夫し、やっていくのは、簡単な事だと分かりました。そう考えますと、色々新しいアイデアが浮んで来ます。教育の面で見ますと、子供と大人、日系人とブラジル人、複式授業、単式授業など、そういった違いがあります。一番あっているテキストを作る事が必要であると思う。

ブラジルで、まだかなり新しい「表現教育」を生かして行きたいと思います。生徒達だけではなく、お年寄りの方達のためにも。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) センターだけでの生活ではなく、もっと日本人、日本文化との触れ合うためにホームステイはどうでしょうか。
- (2) 団体行動は大切だと思いますが、もう少し自由行動の時間を増やして欲しいというのは、いろいろな面の日本を見たり困難に遭遇した時でも一人でやって行けるようになるためのチャンスであり、非常に勉強になると思います。
- (3) 玉川大学での時間を減らして欲しいです。6ヶ月でこの10ヶ月間学んだ事を十分に出来ると思います。
- (4) 新宿日本語学校の一週間特別授業を断続願います。そして、出来れば、国際学友会と東京外語学校でも同じような研修時間もあつたらいいと思います。

4. 所 感

子供の頃、日本語学校へ通い、日本にあこがれを持っていました。大人になって、いつの間にか他の活動をし、日本語からちょっと遠ざかっていく事に気がきました。けれどもあのあこがれはいつまでもどこかに強く残っていました。そして、成人日本語教師として有意義な2年間で過ぎようとした時、JICAの研修で日本に行く事が決まりました。その時は、うれしさと夢のような気持ちでいっぱいでした。

この十ヶ月間、五感を通して、様々な日本をととても近くに感じる事が出来ました。

一番不思議なのはやはり言葉でした。駅の伝言板、電車の中の広告、人々の話し方などの言葉を観察していると、言葉とはなんと生き生きした物だろうとわかります。言語を教えるにはただ知的に教えるのではなく、感情を忘れてはいけません。知識と感情をハーモニーにやっていくということです。

最後に、私はこれからも日本語教師として大いに活躍する事をめざします。JICAの皆様、玉川の皆様、この十ヶ月間本当にありがとうございました。

5. 集りなどを計画しています。

玉川大学の音楽にゲーム、センターでのレクリエーションは本当に楽しい、おもしろい時間でした。日本語教師だけではなく、ブラジル語の教育指導者にも伝えたいと思います。

そして更に、日本で収獲したたくさんの本を読み、学び、現地ですますます日本語のためにつくして行きたいと強く思っています。

ブラジル国サンパウロ

イタマラチー学園

菅野 百合子 テレーザ

1. 当初、研修に期待したこと

- ① 日本語能力を向上させること。
- ② 日本の文化、歴史、伝統を習得すること。
- ③ 日本の教育指導法を学ぶこと。
- ④ 日本を知ること（現在の状態）

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

10ヶ月間、玉川大学で特別授業を受け、又はいくつかの学校で授業参観もしました。すべて、すばらしい、新しい経験でありました。

こちらの学校では、どの授業でも多くの教材機器を使用していることに気がつきました。私の学校では、決まった教科書だけを用いて、教師は他に教具らしい物はほとんど使っていません。ですから、こちらで教わった色々な教授法を生徒達が楽しく満足しあえる教育指導法を生かしたいと思っています。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

この研修制度は、二世、三世の日本語教師にとって大変適応しています。日本をしる一つの機会であると思います。でも、研修期間をもう少し長くしたらどうでしょうか。

出身地研修では、地方の学校の様子や状態を理解できるので、継続願います。その出身地研修とおして、始めて日本の家庭のなかで生活でき、その重要さを感じました。

4. 所 感

10ヶ月間の研修は、夢のように早く過ぎました。異なる文化、社会制度、習慣の中で生活することができ、とても幸いに思っています。旅行、古典芸能、友達との交流など、いろいろな体験を味わい、先進国-日本を心と体で感られました。そして、色々な面で深く考えさせられました。

私は、ブラジル人として、日系人として、日本で研修させていただきました。研修は、もちろん、楽しい時ばかりではありませんでした。悲しい時もありました。でも色々な技術を身につける事ができ、希望は大きくなりました。有意義な10ヶ月でした。

これから、日本の思い出を一人でも多くの人に伝えたい気持ちです。それから、できるだけブラジルの日本語教育の発展に努力したいと思っています。

最後に、長い間お世話になった玉川大学の諸先生方、国際協力事業団の皆様方に心から感謝申し上げます。

ブラジル国アルジャー

アニヤンゲーラ日本語教師

玉田 ルシア めぐみ

1. 当初、研修に期待したこと

私は、日本語の先生としての経験はわずか一年間です。昼間は子供に教え、夜は大人に教えておりました。

大人に新しい言葉を教えるのはそんなにむずかしくありません。大人は自分から、ある目的を果たす為に学校に来るのですから、いくら大人は覚えが悪いと言っても努力をして、なんとか頭で覚えます。

子供に教えるにはただ、日本語を教えるだけと言うわけにはいきません。自分が好きで日本語を習っている子供はほんのわずかです。それに子供ですから「教育」しなければなりません。その為、教師の役目は一つだけではありません。子供の躰をしながら日本語に興味を引くよう授業を進める事が大切だと重みます。家庭もそれぞれ異なっているので、一人一人の個性を理解する事がとても大事ではないかと思えます。

こういう事で私は子供の教育を主に期待して来ました。子育て教育と共に日本語教育の他、教材研究を望んで日本に来ました。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

私の昔からの夢は、自分の日本語学校を開設する事です。

自分で教材を作成し、「自己流」の子供だけの日本語学校を設けたいと思います。玉川で習ったように、体と心で楽しく日本語を習得させられるような教育が出来るよう頑張りたいと思っています。

それに、玉川で学んだ事をブラジルの日本語の先生方に出来るだけ幅広く伝えたいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1. 玉川の講義は、まとめて5ヶ月間ぐらいでやっていただいた方が良いと思います。
2. 先生方のご都合もございましてしょうけれどできれば1週間中毎日の授業時間がいっぱいの方が良いと思います。
3. 日本語を外国語として教えている学校、又は日本で外国語を教えている学校の参観をもう少しふやしていただいた方が良いと思います。

4. そんなに長い期間でなくても、日本人の家庭内で生活が出来ればとても良い勉強になると思います。
5. 研修生全員の目的が同じ方が良いと思います。(自分の日本語のレベルアップなのか日本語の教授法なのか)。
6. チームワークを壊すような人は受け入れないでほしいです。私達のグループは或る人の為、ずいぶんいやな毎日を送って来ました。
7. 国際女子研修センターに3週間もいなくても良いと思います。
8. 夏期スクーリングも第1期に参加させていただいただけで十分だと思います。

4. 所 感

祖国を離れて10ヶ月間。国では味わえない四季を目で見、膚で感じ、日本人と一緒に暮らした10ヶ月間。笑ったり、泣いたり怒ったりして来た10ヶ月間…。この10ヶ月間で私達は何を学んだのでしょうか。どんな経験をしたのでしょうか。

習った事や経験した事をここに全部書こうとすればたぶんいくら書いてもきりがありません。朝起きた時から夜寝るまで私達にとっては新しい経験でした。

様々な講義や見学のように良い経験ばかりではありませんでした。不愉快な思いを幾度も味わった電車のラッシュやブラジルと全く異なった文化と習慣を理解しようと必死になった事など、ありとあらゆる面で新しい経験をしました。

私のように3世になると家庭でも日本の習慣が薄れて来ています。でも日本語教師である限り、日本については一応理解しておかなければならないと思います。そして生徒達に日本の心も伝えて行かなければ何の意味もありません。言葉だけを教えたのではまるでコンピューターに新しい情報をつめ込んでいくのと同じではないでしょうか。

私はこの日本の素晴らしい文化と日本の習慣などを伝えながら生きた日本語を生徒達に教え、立派な日系人を育てて生きたいと思います。

この研修は私に日本語教師として自信を与えて下さった上、人間としても成長させて下さいました。これも全部皆様のおかげです。

国際協力事業団の皆様、玉川学園の皆様、諸先生方この10ヶ月間本当に御世話になりました。誠にありがとうございました。

1. 当初、研修に期待したこと

今まで大人ばかりに日本語を教えていた私には子供に教えるのが一番にがてでした。それでもいつか子供に教えたいと思っていました。それで今回の研修で子供に対する指導法や教育法や教材などを研究しようと思って日本に参りました。その他、自分自身の日本語のレベルアップもしたいと思っておりました。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

私の祖先が日本人であることに誇りを持っています。日本に来られ、色々な経験をさせていただいたり、日本の特徴を味わったりしました。それを帰国してから生徒達に伝え、日本語に興味を持たせたいと思います。

いつか自分の学校を開きたいという夢があります。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

現地日本語教師本邦研修制度自体はとても良いと思います。

私達は一年コースのスタートです。それも一年間ではなく十ヶ月の研修でした。そういう点もはっきりして下されば勤めている学校の休みの許可をもらう時に良いと思います。

初めてですから色々とありました。しかし、いつも私達の係りの方は話し合いをして下さいました。

4. 所 感

日本に来られたことをとても良かったと思います。一日一日が一つの経験になり、楽しかったです。講義を受けたり、色々な所に見学や旅行に行きました。一番難しいことは人間関係でした。わりと日本人とは問題がありませんでした。その問題というのは私達のグループでした。グループと言ってもサンパウロ支部から来られた人一人です。それがいくら玉田団長さんもチームワークを守って行きたくても、彼女は自分が良ければ他人はどうでもいいという考えを持っているのでとても不愉快でした。こんなことは二度とないようにお願いします。回りに気の毒だと思います。

研修中、私の場合は入院中、皆様に色々とお世話になりました。

係りの方初め、研修生の皆様心からお礼申し上げます。

短かかったけれども、私のトランクにはあふれる程の思い出ばかりです。又、会う日まで…

ペルー国リマ

ラユニオン総合学校

池田 グロリア

1. 当初、研修に期待したこと

- ① 外国人に教える日本語教育法
- ② 外国語としての日本語指導：文字、文法、作文
- ③ 日本語に興味を持たせる、楽しく学ばせる法
- ④ 実際見た日本の文化・習慣
- ⑤ 教材研究。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- ① 玉川学園小学部の小宮先生の音楽の授業あるいは授業以外の場で先生が児童とふれ合われる様子を拝見し、そのふれ合いがとてもすばらしく、印象的でした。

いかに児童にとって環境や教師の心構えが大切であるかと分かりました。現場に戻ったら、先生の「ふれ合い」を思い出し、先生のような児童との接し方を参考にさせて戴き、すばらしい教師になりたいと思います。一生懸命に頑張っていきたいと思います。

- ② 移住センターで石井先生が教えて下さったレクリエーションは私にとって大変役に立ち、実用的な講義でした。ペルーの子ども達が日本語の授業で楽しく進んで学べるためにもさっそく活用したり、応用して行きたいと思います。

- ③ わずか一週間だけでしたが新宿日本語学校で授業を参観させて頂きました。ここでわたしが求めていました日本語教育の教授法をやっと見つけました。本当にうれしいです。日本の学校で教える国語との外国人に教える日本語は全く違うので教え方から教材の使い方まで非常にむずかしいです。こちらで学んだことを先に自分で工夫しながら考える。又、他の先生方にも伝えたいと思います。

しかし一つだけ、この学校について私なりに思ったことは、教える内容があの時間では少し多すぎて学ぶ人にとってはもう少し時間をかけて教えていくほうが学びやすいのではないかと思います。

3. 今後の現地の日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- ① ペルーの日系校では毎年生徒の数が増えている。親は日本語の知識を子供に持たせたいと願っている。けれども教師が足りないので現在学校サイドは困っております。これから先のことを考えてみますと、私達二世、三世や四世が先頭にならないといけないですから、事業団がぜひこ

の「研修制度」に毎年一人ではなくて三人か四人ぐらいに増やして、新しい教師が育つように心からお願いしたいです。

- ② 今後のBコースの先生方に初めの三ヶ月間は新宿日本語学校で授業を受けさせて、それから玉川大学を参観させたほうが良いと思います。
- ③ 授業の内容については「外国人に教える日本語教育法」を教えてほしいです。たとえば国際学友会、新宿日本語学校などのような教え方。
- ④ 玉川のスクーリング後期は良かったですが、現地での日本語教育とはあまり直接関係ないと思いますので役に立つ作文、指導、美術、リクリエーションにしてほしいです。できれば三年か四年置きにどこかの国でもAコースやBコースの第一から現在までの先生方の集まりがあればいいと思います。(文流会のようなもの)

4. 所 感

今すべての研修を終わってみて、一番残り、考えさせられることはことばを教える人間にとってその国の文化を深く学ぶことがいかに大切であるかということを再考させられました。たとえば「雨」という単語はどこの国にもありますが「雨」も、しとしと…ポツポツ…ザーザーなど色々に振るようすが表現され、その国によっては、そのような表現にある雨の降り方がない国もあり、ことばのニュアンスを伝えるのにとってもむずかしい場合が出て来ます。こういうと今回のような研修制度の思恵によって現地で実際に色々のことを体験することで、ことばのもつ意味合いを文化とからめて肌で知ることが出来たことは、ことばを教えるものにとってもとても有意義なことでした。

これは一つの小さい例ですが、ことばというものはその国の文化を知れば知るほど「生きたことば」として人に教えられる気がします。これからもこのような研修制度が増々盛んになってくれば良いとつくづく思いました。

国際協力事業団の皆様には本当にお世話になりました。

一年間のこの研修をペルーに帰ってこどもたちに一生懸命生かしていくことが事業団への何よりのお礼に通じるのではないかと思いますので精いっぱい頑張りたいと思います。

アルゼンティン国ブエノスアイレス

ブエノスアイレス日亜学院

杉 山 ノルマクリスティーナ

1. 当初、研修に期待したこと

- ① 三世である私の日本語力を上げること。
- ② 日本語を外国語としての能率的な教授法を覚えること。

- ③ 子供達に楽しく授業するための教授法を覚えること。
- ④ 日本の文化、歴史を学ぶこと。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この研修に参加させていただいたおかげで私はこれからもずっと日本語を勉強し続ける気持ちで一杯です。

玉川で覚えた一つ一つのこと、又、この一年間を通して経験したことをアルゼンチンに帰ってこれから教える子供達に伝えて行きたいと思います。今まで私はアルゼンチンの学校に力を入れていましたが、これからは日系人用の日亜学院の方でも一生懸命教えたいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- ① 玉川では日本の子供に対しての教授法を中心に勉強しましたが、これからはできたら外国人の子供達を教える時の教授法をもっと深く学ぶことができたらいいと思います。
- ② 新宿日本語学校での研修の時間をふやしていただきたいと思います。
- ③ センターで行われた森田先生、白鳥先生、石井先生の授業をもふやしていただきたいと思います。

4. 所 感

終わろうとしているこの研修の十ヶ月間の月日をふり返って見ると、本当に心にのこったものがたくさんあります。

私には大変参考になった研修で、アルゼンチンに帰っても日本語の勉強をずっと続けていきたいと思っています。

アルゼンチンの学校だけでなく、日本語学校にももっと力を入れたいと思います。

この十ヶ月間に覚えた色々なことを忘れないでアルゼンチンにいる日系三世や四世に日本を伝えたいと思います。そうすれば日本語も日本の文化もきっとアルゼンチンにずっとのこるでしょう。

玉川大学の夏期スターリングはちょっと大変でしたが、日本の色々な所から来ている人達とお話ができ、とってもよかったと思います。音楽の授業は特に私の心に残りました。アルゼンチンの子供達に教えたらきっとよろこぶでしょう。

書道、茶道、生花の授業も初めてでしたが、大変いい経験になりました。センターで受けた森田先生、石井先生、白鳥先生などの授業と見学した色々な学校は大変参考になりました。そして新宿日本語学校で研修を受けた一週間は特に私にはよかったです。外国人に教えるための教授法を覚えることができ、授業も見学することができ、とってもためになりました。

十ヶ月の間に「能」や「歌舞伎」や「日本舞踊」を見ることができ、又、日本の色々な所に旅行

することができ、日本をもっと深く分かるようになれたと思います。

最後に国際協力事業団をはじめ、玉川大学や他にお世話になった先生方に心から感謝致します。
この十ヶ月間のことを大事に心の中にしまっておきたいと思います。

ブラジル国パラ

サントアントニオ日本語学校

井内典子 スエリ

1. 当初、研修に期待したこと

- ・ 祖父母の故郷、日本の伝統を通して日本人を理解すること。
- ・ 国語力を向上すること。
- ・ 日本語を外国語として児童に教える場合の教授法
- ・ 色々な幼稚園、小学校又は日本語を外国語として教えている学校の授業参観

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- ・ 日本の伝統を大切に、日本語を単なる外国語として教えるのではなく「日本人の心」を感じ取ってもらいたい。
- ・ 常に教材の研修をして、現地にあった授業を行いたい。
- ・ 表現教育やリトミックをできるだけ授業に取り入れて表現の豊かな子供に育てたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- ・ この研修制度は、続けていただきたいと思っています。
- ・ 何年かに一度、この研修生がどこかに集まり、その後の研修の生かし方や成果を話し合える機会を与えていただきたいと思っています。
- ・ 夏期スクーリング、学校劇、女子研修センターへと暑い夏に次から次へと休まず講義を受けていますと、かなり疲れましたので一週間ぐらい夏休みとしての自由な期間をいただければ、尚良い研修をできるのではないかと思います。

4. 所 感

この十ヶ月間の研修は、学ぶ事ばかりで最初のころは、ずいぶんとまどいました。

自分の未熟さをしみじみ感じさせられ、今後も勉強にはげみ、子供達に好かれるような先生になりたいと思っています。

最後にこのかけがえのない研修の機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様、及び玉川学園の皆様にご大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

1. 当初、研修に期待したこと

◎ 日本語力を高めること

私の場合、日本語学校に通ったことがありません。日語教師研修生として、日本に来る三年前までには、ひらがなさえ書けませんでした。日本語を勉強するのは、大学生になってからです。しかし、日本語を勉強し始めたと言っても、週にたったの五時間でした。環境と生活の言葉は英語でしたので、なかなか思うように進歩しませんでした。日本での環境の中で、日本語力を高めるのは、一番速くて効果のある方法ではないかしらと思いつつ、日本に留学する機会を期待していました。

◎ 日本を大いに経験すること。

日本語の勉強ということだけでしたら、外国で何とか出来ることですが、日本を経験することは日本でしか出来ません。日本に関心と興味のある人達にとっては、日本のことを本や他の人からのお話で知るのには足りないのには違いない。外国で経験出来ない日本、即ち旅行をとおして日本を知ること、日本での毎日の生活、日本の芸術の世界、多くの日本人との触れ合いなどの経験を大いに期待していました。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

◎ 勉強をつづけたいこと

前に述べたように、私は日本語を勉強し始めたのは最近のことです。日本語に対してまだ不自由することが多いのです。この研修を基にして、日本語と日本に対する勉強を大学で続けたいと思います。

◎ 日本に対する興味を引き起こしたいこと。

10ヶ月ほど研修を受け、滞在中の色々な経験のお蔭で日本に対する関心と興味がますます湧いてきました。自分の学んだことをカナダにいる日系人や日本に興味を持つカナダ人にも、熱心に伝え、日本に対する関心をもっともっと引き起こしたいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

◎ 一般的に、研修で、外国との関係の深い先生に教わったことが一番効果的だったと思います。留学なされた、又は外国での経験のある先生は、外国語を覚えるためある程度苦勞をなされたのではないかしらと思います。こういう経験のなされた先生の言葉に関する感覚は、私達にとって

はものすごくいい勉強になると思います。こういう先生はやはり私達学生として日本語を学ぶのと、これから先生として日本語を教える二つの立ち場を良く理解していらっしやると感じます。こういう先生方に教わる機会を増やしていただきたい。

◎ 玉川大学での研修は、色々な面で参考になったと思いますが、玉川に通っていたわりに効果があまりなかったと思います。二期に入ってから、一つの授業のため電車でも三時間もかけて行きました。たったの10ヶ月の研修なのでこういう時間の無駄と余計な精神的な疲れを出来るだけ少なくしていただければありがたいと思います。

◎ 研修の最初の半年が一番辛かったと思います。

日本に来て二ヶ月、やっと横浜のセンターでの生活に慣れて来た所、玉川の夏期スクーリングに参加するため約一ヶ月間玉川の塾に入り、そのすぐあと、また一ヶ月間国際女子研修センターに入りました。日本に来てからの疲れが丁度その間、出て来ました。その上、真夏でしたので参りました。どこかでせめて一週間ぐらいの夏休みを入れていただければありがたいと思います。

4. 所 感

私は何回も日本に来たことがあります。初めて日本に来た時から、日本は私の憧れの国でした。日本に来ると、日本に対する憧れが深くなり、また来たいと言う気持ちがますます強くなります。

今回の研修のお陰で、近いうちにまた何とかして勉学に日本に来られるために努力することに決心しました。この10ヶ月の間、辛いことも、楽しいこともありました。苛々することもあれば、感動も満足出来た部分もありました。私の精神状態は、毎日ローラー・コースターに乗っているようでした。しかし、こういうことは、自分の心が、それほど日本に反応していたと言えるのではないかと思います。英語にはことわざがあります。日本語に訳せば、「苦しく感じていると言うことは、成長している証拠です。」と言うようなことになります。苦しいことばかり経験して来たと言うことではなく、苦しいこともあったからこそ、私は成長して来たと思います。実際に日本で生活と同時に勉強することは初めての体験でした。良かれ、悪しかれ最高な経験でした。

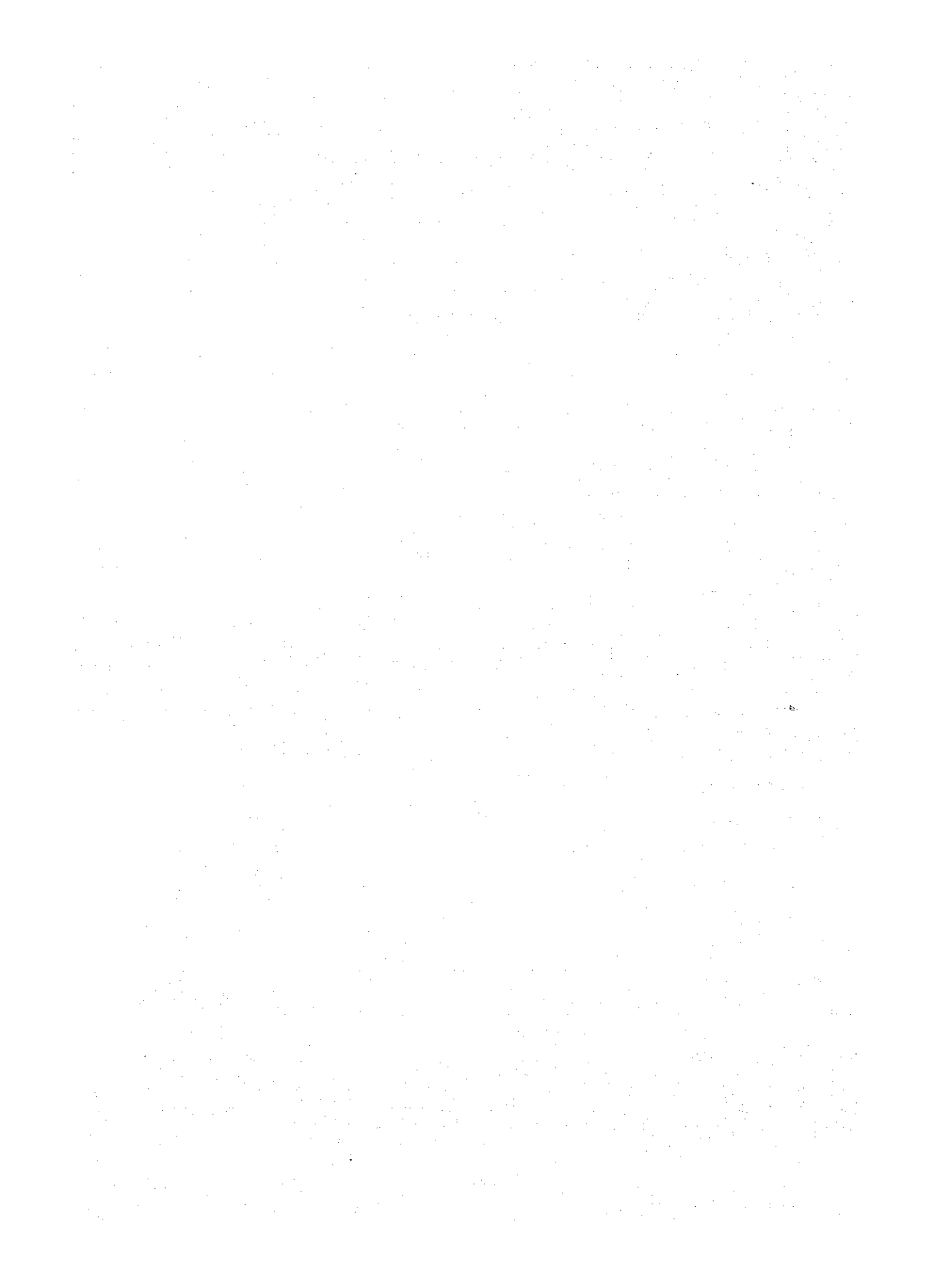
今まで、日語教師としての経験はありませんでした。自分の日語の勉強だけで精一杯でしたので、現地日本語教育についても考えたことはありませんでした。この研修を受けて、これからの日系人にとっては、どれほど日本を知ることと日本を理解する必要があると言うことが分かりました。玉川大学の上原先生の教えが一番印象に残りました。上原先生がいつもおっしゃるのは、日本語を覚えさせるのではなく、日本語を通して、日本人の心を理解させると言うことです。私も、この目的で日本語を教えられるようになりたいと思います。そのため、これから頑張りたいと思います。

もう一つ研修でとても良かったのは、他の国の日系人との付き合いが出来たと言うことです。世界は広いように感じますが、全く違う環境に育って来たのに限らず、心が通じ合うのは、素晴らしいことだと思います。しかし、これを感じられたのは、日本語を共通語として話せたからです。こ

のバトンタッチが出来て、これからの私の人生にどれほどの影響があるのか今、想像も出来ません。日系人にとっては、すくなくとも、日本語を話せるのは、損のしないことと感じ、日本語を少しでも話せるようになって欲しいと思います。私があるため、何か役に立つことが出来たら、幸せに思います。

やっと日本での生活に慣れて来た所、研修が終了帰国する日が近づいて来ました。悲しい気持ちもありますが、また今度日本に来れる日を楽しみにしています。

この10ヶ月間、研修をさせていただいて、心からお礼を申し上げます。



研 修 日 誌

第7回現地日本語教師本邦研修日程

(3ヶ月コース研修生)

6月17日 月曜日 曇り

昨夜、到着したサンパウロからの教師達3人も加わり、Aコース研修生全員が移住センターロビーに集合する。先ずお互い自己紹介をし合う。男性教師は、3人のみで、圧倒的女性上位の第7回のメンバーである。川端研修課長の案内で新宿の移住事業団本部に開講式及び歓迎会出席の為、一同出発、およそ一時間かかり新宿駅に到着、事業団本部は55階建のロビーの中に有り、そのビルの下に立ち堂々たる建物に一同改めて日本の巨大な経済力に驚く。

11時半に開講式が始まる。先ず国内事業課長の佐々木仁氏が挨拶を述べられた。氏は最近までパラグアイ国で勤務されて居られたとかで、研修生達は非常に親しみを覚えた様子である。

外国における日語教育の難しさ、そしてその意義を独特の話し方で語られ我研修生、自分達の責任の重さ、そして任務の大切さに思わず心がひきしまった。歓迎会に移る前、それぞれ自己紹介をする。後、課長の音頭で乾杯をして歓迎会は和やかな雰囲気の内始まった。研修課長、川端氏も以前サンパウロに勤務されて居り、当時の思い出話なども出て非常に楽しい歓迎会であった。

6月18日 火曜日 小雨

江崎氏の案内でそれから学ぶ玉川学園に第1日目の登校、根岸、横浜、相模大野と電車を乗り継ぎ、約1時間余りかかって11時過ぎ玉川学園駅に到着、学園前にはこの度、我々研修生のお世話をして下さる田中氏がもう待って居られた。今日の第1のプログラム、歓迎会には、約1時間の時間がある為、合い間を利用して学園内を案内して下さった。田園都市の中にある玉川学園は、緑が多い素晴らしい環境の中に有り、その雰囲気の中で学ぶ学生達は幸せだと感じた。

玉川学園は幼稚部から、大学までその生徒数は1万人にも登り、あちこちに散在する大きな建物からも、その規模の大きさが十分に想像できた。

構内に無数に通じる自動車道や歩道は良く清掃されて居り、あちこちにごみ箱が置かれ、通行人は絶対道に捨てないとのことである。

歓迎会は、女子短大内で行われた。先ず、各講師の先生方が紹介される。おなじみの正善達三先生の顔も見られ、研修生一同先生の笑顔に少からぬ緊張もいくらか和らいだ様子である。佐々木課長が全研修生を紹介され、後大学側から小原氏の御挨拶が済んで歓迎会を終えた後、学園の様子を紹介する8ミリ映画を観賞する。学園のおいたち、そして教えのモットー、現状などつぶさに紹介、我々はこれから学ぶ大学のすばらしさに胸を踊らせながら帰路についた。

6月19日 水曜日 小雨

我々、研修生最初の授業の日である。

20数年前は、東京に何度も足を運び、東京は我が庭のごとく思っていた。何人かの研修生達も目まぐるしく変貌した東京の姿には驚嘆。迷路のごとく四方八方に広がる駅の通路、雑踏するプラットホームの中を唯うろうろするのみ。悪戦苦闘の末ようやく玉川学園駅に到着、幸い時間に十分余裕をもって出発した為かなり予想より早く着いたのは、せめてもの幸いであった。

10時40分、定刻きっちり第一回目の授業が始まる。今日の授業は日本史である。担当教授、瀬山先生は、学者にはめずらしい気さくな方、ユーモアを入れながら予備知識のすくない研修生でも分かる用説明して下さった。

日本の文化は、恥の文化と言われそれ程、義理・人情を重んじてきた。又、日本人の特質が出来上がって来た理由として、自然が大いに影響して来たという論は、なる程とうなずかせた。

日本の天皇と西洋諸国に存在して来た皇帝との違いについても良く理解できた。我々が大いに興味がある天皇について、案外知られていない歴史的事実を知る事が出来たのも大きな収穫だったと思う。昼食は巨大な食堂も満員の多数の学生の中で食事をした。食券を求め、カウンターに行って食べ物を受け取るのであるが、その行列の長いのにあきれる。立ち食いでわずか三分程で済ませ外に出ると、又ひきりに小雨が降っていた。

午後からは、夏期スクーリングに就いてのオリエンテーションが、通信教育校舎の一室で行われた。先ず、映画でスクーリングの様子を紹介し、それから担当の先生が色々説明をされた。ずい分豊富な種類と内容であるが、あまり欲ばらず、自分の最も関心のあるもの、現地に持ち帰り使えるものを選んでそれに全うした方が良いとの事である。

尚、スクーリング参加者は全国から4千余人も有り、職業、年令もまちまち。ほとんどが教職を目的とする者ばかりでその熱意は普通学生とは大いに違い正に熱気湧れる授業になるとの事。何を選ぶかは、十分考えた後であるが、後で後悔しない様、良い選択をしたいものである。

佐藤

6月20日 木曜日 雨後晴れ

まだ時差ぼけがとれず、夜中に目が覚める。身体がまだ飛行機に乗っている様だ。玉川学園通学も今日で三日目、電車の乗り換えも覚えた様に思ったが逆の方向の電車に乗り、あわてて乗り換えやっと玉川学園に着く。今日の授業は佐藤和男先生の美術、小野先生のリトミックである。全員が童心に返りクレパスで画用紙一面色を塗りたくったり、体操着に着替えて飛んだり跳ねたり、大変楽しい我々が現地に帰って即座に活用出来得る有意義な授業であった。

我々研修生16名を2グループに分け、今日はイのグループが書道の講義を石川先生より受ける。

講義内容

- 〔Ⅰ〕美術 子供はイメージの中に生きている
大人は現実の中に生きている。
義務感で絵を書いたら絶対にだめ、まず絵が好きになり楽しめる様にならなければいけない。

子供の絵の書き方

低学年 理想、空想の絵を書く。

中学年 自分中心の絵を書く。

高学年 見た通り、思った通りを書かないと気にいらぬ。

子供には子供の世界がある。子供が表したいなという状態に持って行く事が大切。

- 〔Ⅱ〕リトミック まず開放するために四つの質問を各自五人の先生にする。
次に集中する。目を閉じて外の音を聞く。イメージを膨らましてお話をつくる。
導入として汽車の踊りをする。
音符のはやさを動作で覚える。
速度を覚えるために曲に合わせてやる。

- 〔Ⅲ〕書道 書道とは中国と日本だけにある独特の文で最も古い文化である。
書の道とは美が表現されなければならない。
書道には、自己が表現される。

つまり書とは、心の表現である。久しぶりに動かし心身共によく鍛えられた。少し疲れたので早く休む。

弥 政

6月21日 金曜日 小雨

今日も一日中しとしとと雨が降る。朝八時に集合して玉川学園に行く。食堂が混雑するので半数以上の先生は駅前でお弁当を買って行く。

第2時限(午前10時40分)より金平正助教授の「近代短歌」の授業があり、すぐに昼食後第3時限(午後1時)の体育は永井三千昭先生の「布を使った運動あそび」を学ぶ。はげしく体を動かした後、昨日の残りの口のグループ八名に対し第4時限(午後2時40分)の石川先生指導の「習字」が学園内にある咸宣園に於いて畳の上に正座しておこなわれた。アのグループは第3時限が終わって移住センターへ帰る。どの先生方もにこにこ笑顔で丁寧な言葉を使って御指導くださり、私共に対する心使

いを身にしみて有難く感謝する。

講義内容

〔Ⅰ〕近代短歌 金平正助教授 於短大会議室

- ◎ 短歌は文学の中でも特殊なものと考えられるが、日本語の言葉の命を持っているという意味で自分でつくってみる。きまった中でじぶんの思いを表わすのはきびしいことである。表現の機微というものを大切にす。
- ◎ 歌と言う字は^か可^か可^あ欠^あと書くSONGであるから形にはまらなくてよい。
- ◎ 一番古いのは古事記である。
- ◎ 神和「やまたのおろち」に出てくる、くしいなだ姫が歌った歌が短歌の最初だと言われている。八雲たつ出雲 八重垣 妻籠に 八重垣つくる その八重垣を
- ◎ 「短歌実作指導教室」木俣修教授の本を使って第3章短歌の鑑賞を読み、味わいながら指導を受ける。
- ◎ 昨年研修に来られた先生方の短歌を参考に教えていただき、宿題として短歌をつくってみること。本の中から好きな短歌をえらび、なぜ感動したかを考えてくること。

〔Ⅱ〕体 育 永井三千昭助教授 於大体育館多目的体操場

玉川学園女子短期大学に於いて幼稚園児に対する体育の指導をして居られる先生より、今日は「布を使った運動あそび」の指導を受けた。説明は、幼児児童の創るシリーズ(6)「小さな遊具の運動あそび」を参照すること。

子供にとっては「あそび」は生命であり、身体のすべてを使って「あそび」に没頭する。その体験の積み重ねがある分野では知的発達を促し、又ある分野では身体的発達を促す根源となる。無意識のうちに求めて行動するこのあそびと身体活動とをうまく結びつけ、子供の生き生きとした本性を引き出してやらねばならない。靴の生活をしているので、足の指先が使えなくなって来ている。風呂敷を渡してやると子供達は腰にまいたり頭にまいたりする。椅子とり競争のように、風呂敷を使った遊びは子供達がよろこぶが毎日そればかりを続けると落着きがなくなって来る。いつも研究を進めながら指導して行かねばならない。

〔Ⅲ〕習 字 石川松華先生 於咸宣園

石川先生は、川上景年先生の指導を受けられ、御自身の制作された書を見せていただく。

書道とは、日本と中国にしかない文化である。理想的な書道をするには、書く状態をつくらねばならない。書の道とは、美が表現されなければならない。書道は世界でもっとも古い芸術といわれる。日本の書道は、平安朝期に実用のものでして一般社会にひろめられていった。美が表現される一ペンキやさんの書く字はデザインで平面的になる。勢いが無い。

書道の書は、線・墨の色の变化も表われ、東洋の哲学の問題である気の問題、書いた人の心が表現されている。

書道=手で書くこと。手習い

教師—手師—手本—

心が正しければそのまま表われてくる。いきている字を書く。

時間が少なくなり、筆の持ち方は習わず、墨のすり方と筆のおろし方を習って「十王」と一枚だけ書き、それぞれ名前を書いて提出する。宿題としてもう一枚清書してくること。太筆は洗って乾かすこと。

理想的な書く状態をつくるために、梅雨のしとしとふる中を咸宜園に着き、格子をあけ、玄関より入り、雨戸をくりあけ、机を並べ畳の上に正座して精神を統一して書道を学ぶことの出来るこの配慮をして下さった国際協力事業団の皆様及び玉川学園の国際教育室の皆様、先生方に感謝する。

充実した一日であった。

山田美枝

6月22日 土曜日 小雨のち曇り

今日は、第1時間目の授業を受けるため、A,B研修生26名は6時40分過ぎ移住センターを出た。運動着に着替え、指定された芸Ⅲ501室へ。この一室はカメラ撮影に完備された特殊室であり、窓からは緑の学園が一望に見下ろされた。

方先生の表現教育

先づ小原国芳先生の教育活動の基礎をなしている全人教育は、真、善、美、聖、健、富の人格養成で型にはまった教育ではない。

クリアティブドラマについては、心に思ったこと、感じたことを素直に動作や言葉で表に現わすことであり、又その場に実際にはないものや、ないことにまで深く思いをいたし想像してみることである。又、クリアティブドラマをするためには先づあたたかくつろいだ安心出来る場の雰囲気が必要である。

1. 次に部屋の中にちらばり、先生が合図をしたら、だれか一人を相手にしてお互いに自分の名前とどこから来たか、何が一番好きか（食物）を言い合い、終わったら別の相手を見つけて同じことを言い10人すんだら座ることをした。これはリラックスした雰囲気をつくるためであった。
2. 続いて、トイレットペーパーを四角に切ったものを各自が持ち折りたたんで約1センチ幅のものにする。2人組になってそのトイレットペーパーの端を持って向かい合い、色々工夫してゆっくり動いてみる。2人の友情が切れない様にする。2人組がすんだら四人組、八人組となり、協力しながら工夫しているうちにみんなすっかり打ちとけて仲良く、なごやかな気分になる。
3. 次に昨日、体育の時間でやった様な五色のフロシキを使い、音楽リズムに合わせ、色々な運動あ

そび、想像あそびをした。

4. 一同、床に寝て、目を閉じ流れてくる音楽を聞く、その音楽でどのような光景を想像したか（イメージーションをたくましくする）をとりの人とお互いに話し合った。

感 想

無限というか奥深い授業内容で実に素晴らしかった。

今まで私が想像していた様な教育内容とは全くことなる今までお習いしたどの先生も正に全人教育に徹しておられることに感動いたしました。これこそ人間にとって真の教育法であると感じる次第です。

第2時限目は正善先生の現地授業研究であった。

昔からの諺にある“人のふり見てわがふりなおせ”わが身をつねって人の痛さを知れ、この大事な気持ちを持ち、こうして各国から集った又とないチャンスにおたがいの資料を元に他の現地日本語学校の内容、やり方を研究、自分の学校のあり方をふり返り少しでも向上することに努力をしなければならぬ。

現地での一番の問題点、複式授業についての解決法は、先生一人に対し八人に数を減らすことを教えられた。教師の心構えとして学校前日には朗読すること。又、いかなる環境を問わず子供達にもどんどん朗読させること。

・ 朗読上の注意

1. 発音（発声）
2. 抑揚（イントネーション）
3. アクセント
4. プロミネンス
5. 総合

プリント“ころちん”の朗読練習が宿題に出された。なにくれと御配慮いただいた国際協力事業団の皆様に対し、又大学の先生方の行きとどいた暖かな御指導に対し厚く感謝いたしております。

柴 田 富士子

6月23日 日曜日 曇り

センターに着いて2回目の日曜を迎えます。皆さん休日を楽しくすごされるため昨日午後から御親類やお友達方へ外泊された方、又朝から出かけられた方と、今日ひさしぶりに雨も降らず外出なさった方の為好都合だったと思う

私はセンターに残ったので洗濯やアイロン掛や部屋の掃除をしました。それから残られた方と散歩がてら昼食を買いに行きました。食後は食堂に雑談をして居ました。その後、今までの勉強の整理を